

第2次定山溪観光
魅力アップ構想
(案)

2025～2034

目 次

■ 第1章 構想策定にあたって	
1 策定の背景	1
2 構想の目的	2
3 対象エリア	2
4 構想の位置づけ	3
5 取組期間	3
■ 第2章 観光市場の動向	
1 人口推移と国際観光市場の動向	5
2 旅行形態の変化	6
3 国内温泉地の状況	9
■ 第3章 定山溪観光の現状	
1 位置・自然環境	10
2 交通アクセス	11
3 歴史	14
4 観光入込動向	15
5 定山溪の宿泊施設の状況	19
6 観光資源	20
7 第1次構想の振り返り	24
8 定山溪エリア内の事業者に対するヒアリング調査結果 ..	30
9 現状の分析	31
■ 第4章 定山溪観光の課題	33
■ 第5章 基本方針と展開	
1 本構想のコンセプト	36
2 定山溪観光の基本方針	37
・基本方針1	40
・基本方針2	43
・基本方針3	46
・基本方針4	49

■ 第6章 観光魅力アップの推進に向けて	
1 本構想の推進体制	52
2 実施主体及び展開スケジュール	53
3 成果指標	56
4 進行管理、成果の検証	56
■ 資料編	
1 策定経過	57

1 策定の背景

札幌都心から南に約26km、札幌市南区に位置する定山溪は、地区の中央部を貫く豊平川が刻んだ四季折々の表情をみせる豊かな溪谷沿いにあり、北海道を代表する温泉街を形成しています。

定山溪の歴史は古く、慶応2年（1866年）修験僧・美泉定山がアイヌの人々の案内で泉源と出会った時に始まります。その後、札幌と定山溪を結ぶ定山溪鉄道の開業（大正7年（1918年））や国道230号の改良工事に伴う中山峠の通年通行化（昭和44年（1969年））などに加え、札幌市の人口増加や国内の経済成長に伴う宿泊需要の増加などもあり、立地条件に恵まれた定山溪は急増する宿泊需要を背景に多くの宿泊施設が集積する温泉街を形成し、「札幌の奥座敷」と呼ばれるようになりました。

戦後は団体観光客の受入れを中心に発展してきましたが、近年は宿泊需要の団体旅行から個人旅行への移行や東アジアを中心とした外国人観光客の増加など地域を取り巻く環境も大きく変化してきました。こうした定山溪を取り巻く環境の変化を受け、札幌市では平成27年（2015年）に「湯めぐり、森めぐり、水めぐり 四季あそびー札幌定山溪」をテーマに定山溪観光魅力アップ構想（以下、「第1次構想」という）を策定しました。

第1次構想は、平成27年度（2015年度）から令和6年度（2024年度）を取組期間として、4つの基本方針に掲げた取組を実施してきましたが、観光地としての魅力の向上や環境整備などは、その時々々の社会情勢に合わせて継続的に取り組んでいく必要があります。また、今後は人口減少に伴う国内旅行需要の減少、持続可能な観光に関する意識の高まりなどにより、定山溪を取り巻く環境は、大きく変化していくことが予想されています。

このような課題や環境の変化に対応しながら、定山溪のさらなる誘客に向け、札幌市と地域が連携しながら魅力的な観光地づくりを進めることが求められています。

2 構想の目的

札幌市民をはじめとし、全国、世界各国から多くの来訪者が訪れている定山渓は、豊かな自然だけではなく、食やアクティビティコンテンツなども充実し、多様な楽しみ方ができる温泉観光地へと進化を遂げている一方、近年の観光客数は減少傾向にあります。

このような状況の中で定山渓を持続的に発展させていくためには、札幌市の観光振興に係る新たな財源となる宿泊税の活用も見込み、地域資源の磨き上げや、定山渓を取り巻く環境の変化に応じて、新たな価値の創造・発信等に資する施策を展開し続けていく必要があります。

こうしたことから、今後の定山渓の観光施策の方向性を明らかにし、札幌市と一般社団法人定山渓観光協会、地域の事業者・住民などが一体となって取組みを推進するための指針として、『第2次定山渓観光魅力アップ構想』（以下、「本構想」という）を策定します。

3 対象エリア

本構想では、定山渓温泉街だけではなく、隣接する小金湯温泉や八剣山、豊滝、豊平峡、札幌国際スキー場までを含んだ広域的な観光エリアを“定山渓”として表現します。

「定山渓観光魅力アップ構想」の対象エリア

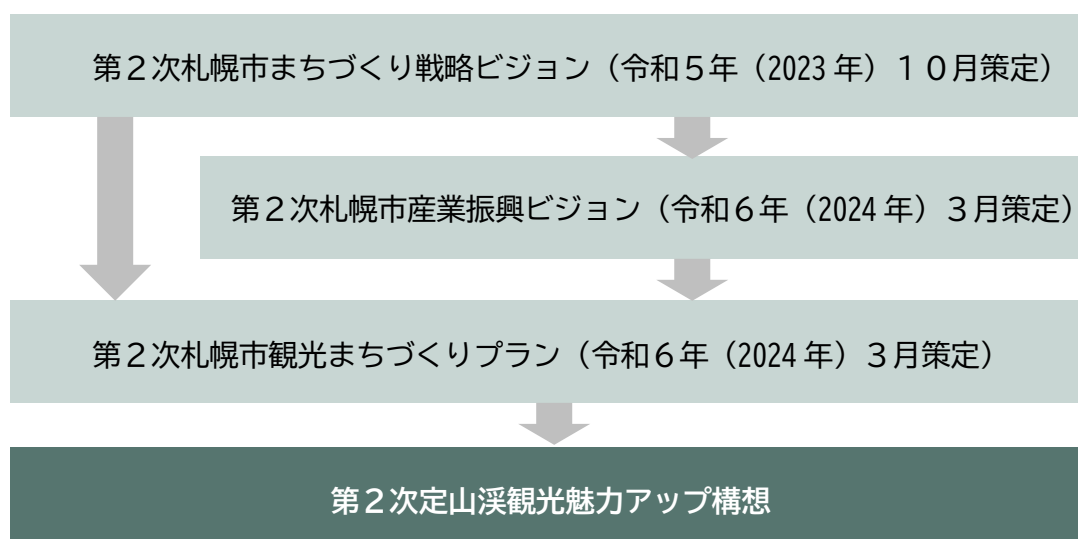


4 構想の位置づけ

本構想は、札幌市の長期的な総合計画である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」で掲げる基本的な方向性に沿った個別計画である「第2次札幌市観光まちづくりプラン」に基づき、官民一体で目指すべき将来像及び定山溪観光に関する取組の方向性を示すことを目的として策定したものです。

構想の実現にあたっては、観光動向や利用者ニーズを的確に把握するため、毎年度収集・分析する観光関連データに基づき、単年度ごとの事業計画を策定します。こうしたデータに裏付けられた計画により、効果的かつ柔軟な施策展開を図るとともに、その成果を次年度の計画へ的確に反映させていきます。

また、本構想で掲げる成果指標の目標達成に向けては、新たな財源となる宿泊税の活用も見込み、札幌市と地域、そして新たに設立されたDMO※が、それぞれの役割を活かしながら連携・協働して、課題の解決に取り組んでいきます。



5 取組期間

本構想の取組期間は、令和7年度（2025年度）から令和16年度（2034年度）までの10年間とします。

なお、構想策定後は、社会経済情勢や成果指標、事業の進捗を照らし合わせながら、必要に応じて構想の見直しを検討します。

※ DMO：Destination Management/Marketing Organization の略称。官民の幅広い連携によって観光地域づくりを推進する法人

【参考】「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン（戦略編）」※抜粋

第2章 8都市空間 基本目標19 (2) ①都市機能の更なる高度化や集積 定山溪

北海道を代表する温泉地であるとともに、豊かな自然と共生した様々な体験が可能な宿泊・滞在型の観光地としての魅力の向上に向けて、官民連携により、温泉街の魅力的な景観づくりや多様な観光資源の磨き上げ、情報発信の強化などを行います。

【参考】「第2次札幌市産業振興ビジョン」※抜粋

重点分野の振興施策 1. 札幌を含めた北海道経済の成長をけん引する「観光」、「食」 ア.観光分野

基本施策1：札幌・北海道の魅力を生かしたコンテンツの充実と付加価値の向上

③ 観光イベントや定山溪地区の魅力向上

雪まつり以外の様々なイベントの道外在住者への認知度向上や、持続的な集客力確保に向けた魅力向上を図ります。また、定山溪地区において、周遊や自然を生かした体験コンテンツの充実を図るほか、「定山溪観光魅力アップ構想」に基づく取組などを進めます。

【参考】「第2次札幌市観光まちづくりプラン」※抜粋

方向性1：札幌・北海道の魅力を生かしたコンテンツの充実と付加価値の向上

1-4 定山溪地区の魅力向上

定山溪地区は、支笏洞爺国立公園の区域内に位置する道内有数の規模を誇る温泉地であり、札幌市民や観光客に親しまれていますが、近年は人々の旅行目的や嗜好も多様化しており、温泉や宿泊だけではなく、周遊や自然を生かした体験コンテンツの魅力向上などの必要性が増しています。

また、各種施設等の老朽化が進み、景観や温泉街らしさが失われつつあることや、定山溪の認知度不足などといったことが課題となっていることから、定山溪地区の観光資源としての魅力向上を目指し、「定山溪観光魅力アップ構想」に基づき取組などを進めます。

(1) 定山溪地区の魅力向上

- ・温泉街らしさにぎわいを創出し、域内の周遊性を高めるため、魅力的な景観づくりや、足湯の新設などの周辺環境整備を行います。
- ・年間を通した集客イベントの充実を図るとともに、体験観光の需要が高まっていることから、アクティビティコンテンツの新規造成やレベルアップを図ることで新たな魅力を創出します。
- ・定山溪の認知度向上のほか、ターゲットに合わせて、誘客・周遊につながる情報発信や誘客プロモーションを多面的に実施します。
- ・観光客の受入体制の底上げのため、定山溪の観光魅力アップやおもてなしのサービスを支える人材を育成します。

(2) 次期定山溪観光魅力アップ構想策定

- ・定山溪の魅力的な観光地づくりを進めるための指針として策定した「定山溪観光魅力アップ構想」の取組期間が令和6年度（2024年度）までで終了することから、次期構想の策定を検討します。

第2章

観光市場の動向

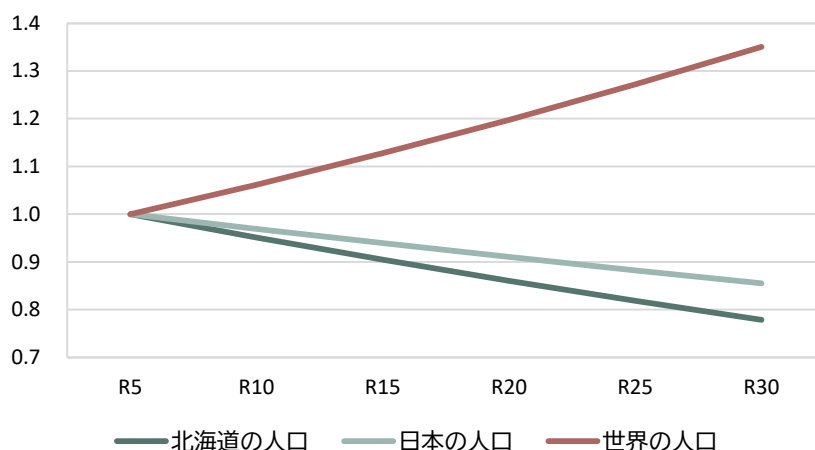
1 人口推移と国際観光市場の動向

世界の人口は増加することが予測されている一方、日本の人口は減少していくことが予測されており、日本人による国内観光需要は縮小していくと見込まれます。また、北海道の人口は、日本の人口より速いペースで減少することが予測されています。

UNWTO（国連世界観光機関）によると世界の国際観光客数は年々増加しており、令和元年（2019年）には14.7億人に達しました。その後、コロナ禍で一時的に減少していますが、令和12年（2030年）には18億人に達すると推計しています。

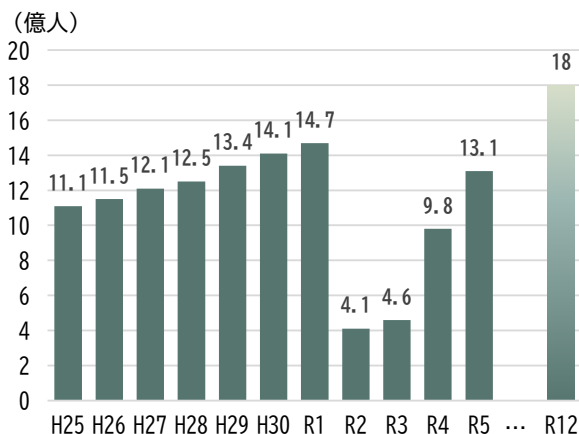
国内人口の減少を見据えると、外国人観光客を誘客することの重要性が増しています。

令和5年（2023年）を基準とした令和30年（2048年）までの世界・日本・北海道の人口増減率（倍）



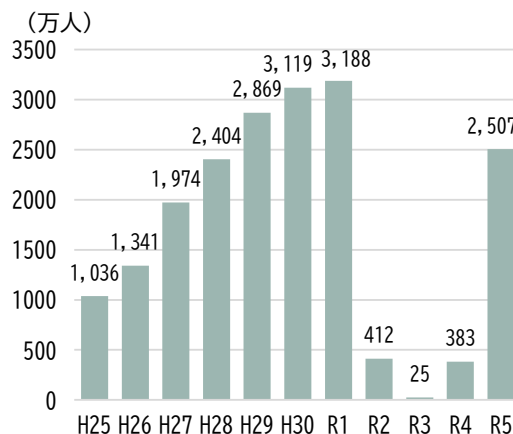
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年（2023年）推計）」、UN「World Population Prospects:The 2024 Revision」
注記）令和5年度（2023年度）以降は、北海道及び日本の人口は、推計データより予測値を算出。世界の人口は、実測値データを用いて予測値を算出。

世界の国際観光客数の推移



出典：UNWTO「Tourism Highlights 2024 Edition」、JNTO「訪日外客統計」

延べ訪日外国人観光客数の推移



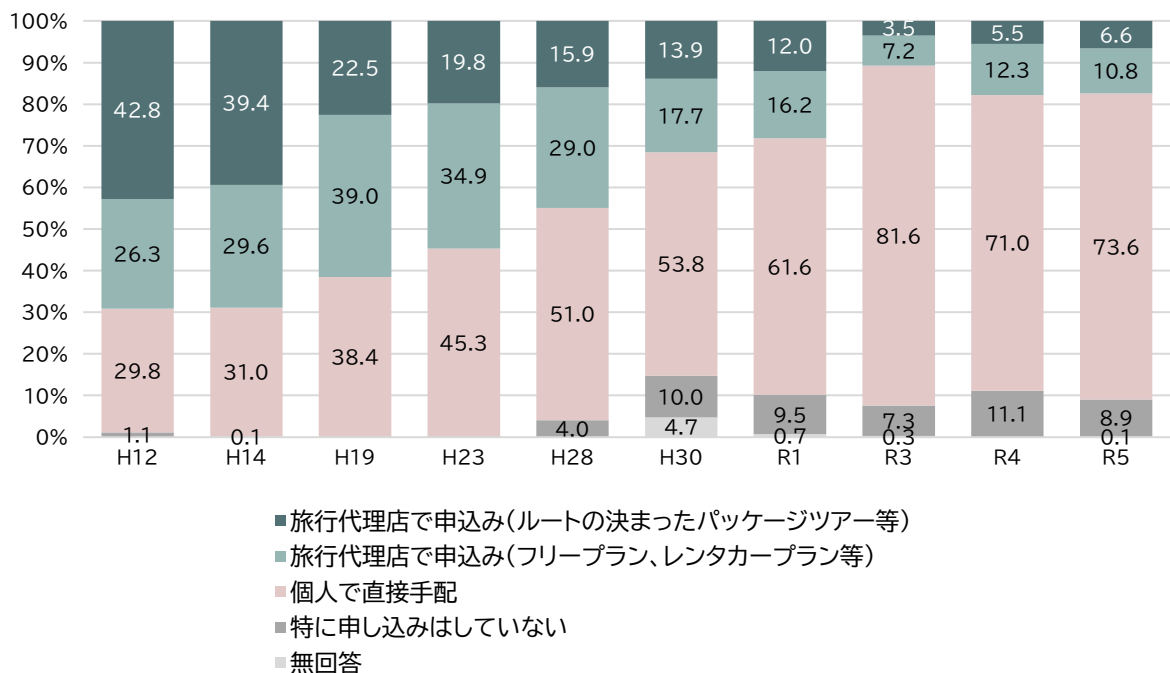
注記）令和5年（2023年）までは実測値、令和12年（2030年）は予測値

2 旅行形態の変化

道外観光客の北海道旅行における旅行形態の推移を見ると、この20年程度で個人で直接手配する形態が増加しています。

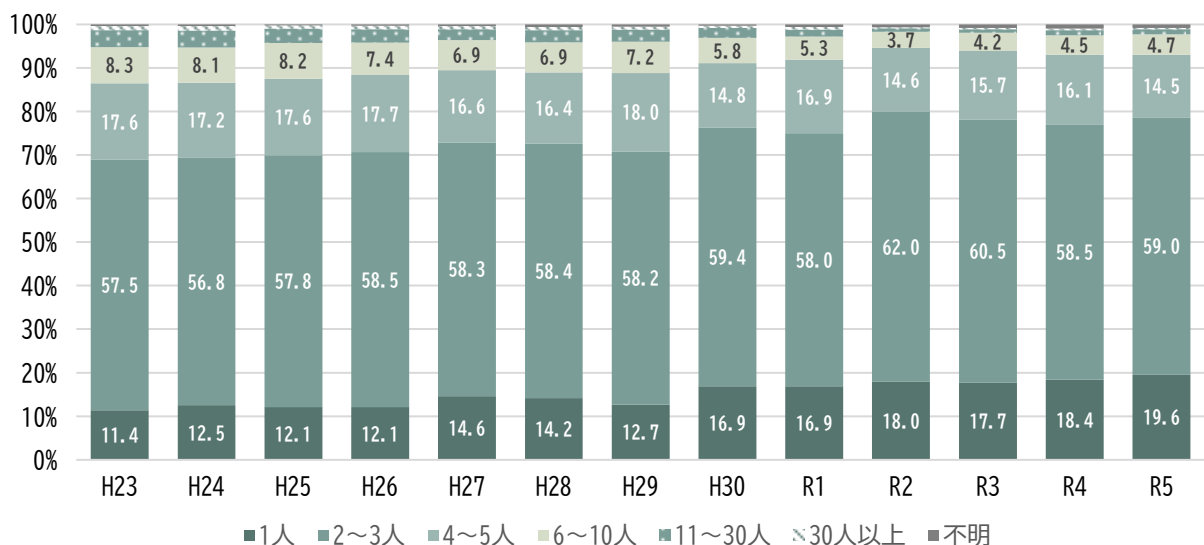
また、国内宿泊観光旅行の同行人数は減少傾向が続いており、1人や少人数グループでの旅行が増加しています。

北海道旅行における旅行代理店の利用状況（道外観光客）の推移



出典：「北海道観光客動態・満足度調査（北海道）」、「北海道来訪者満足度調査報告書（公益社団法人 北海道観光振興機構）」

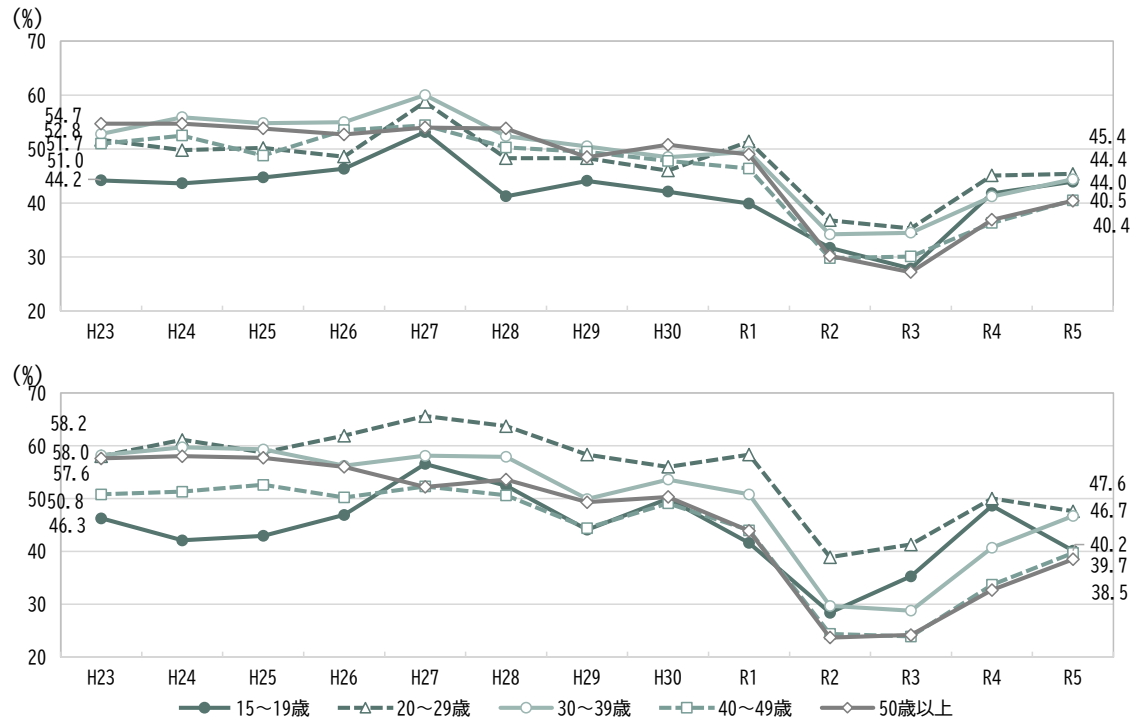
国内宿泊観光旅行の同行人数



出典：「令和6年度版観光の実態と志向（公益社団法人日本観光振興協会）」

年代別国内宿泊観光旅行の参加率は、平成23年度（2011年度）と令和5年度（2023年度）を比較すると、男女共に減少しています。

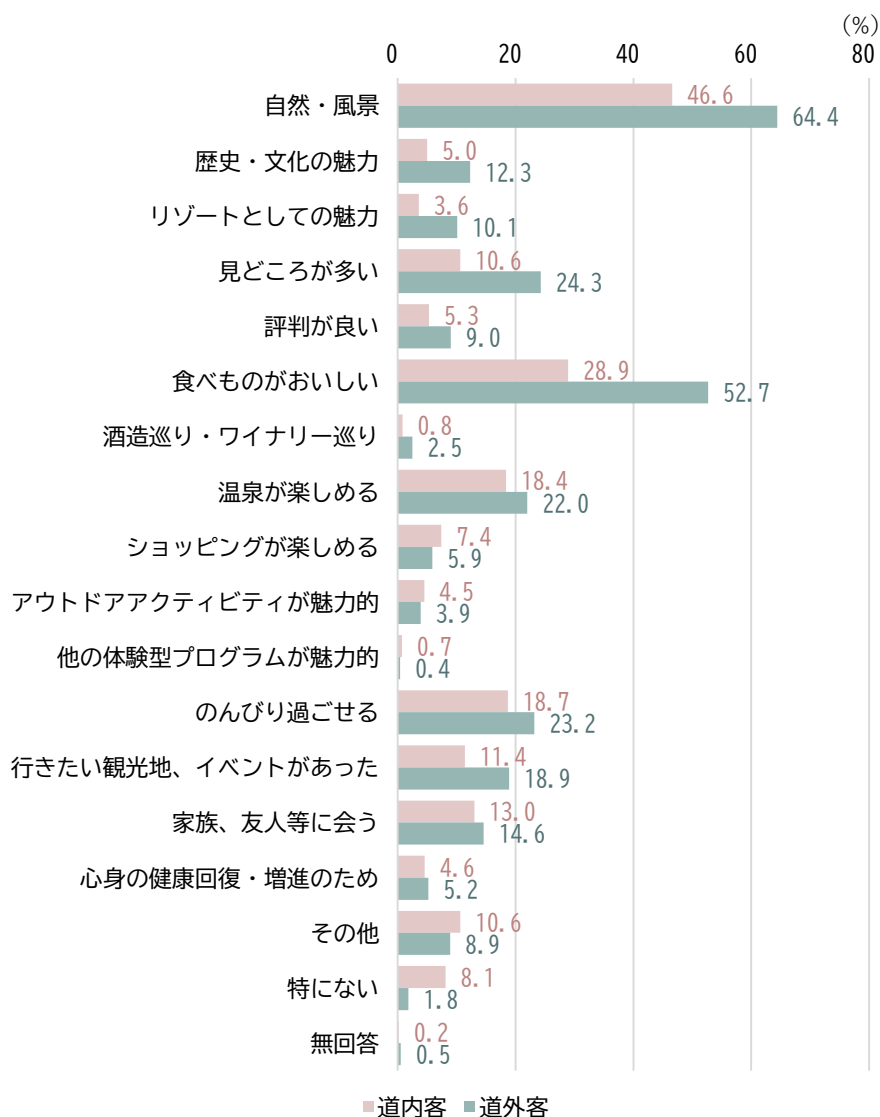
年代別国内宿泊観光旅行の参加率（上：男性、下：女性）（令和5年度（2023年度））



出典：「令和6年度版観光の実態と志向（公益社団法人日本観光振興協会）」

令和5年度（2023年度）における道外客が北海道旅行の観光・旅行先を選択するポイントとして、「自然・風景」が64.4%と最も多く、次いで、「食べものおいしい（52.7%）」、「見どころが多い（24.3%）」、「のんびり過ごせる（23.2%）」、「温泉が楽しめる（22.0%）」となっています。

北海道旅行の観光・旅行先の選択ポイント（令和5年度（2023年度））



出典：「北海道来訪者満足度調査報告書（公益社団法人 北海道観光振興機構）」

3 国内温泉地の状況

観光経済新聞社が実施している「にっぽんの温泉100選ランキング」によると、令和6年度(2024年度)では、草津温泉、道後温泉、下呂温泉が上位3位にランクインしています。

定山溪は、令和6年度(2024年度)の総合順位が37位であり、第1次構想が策定された平成26年度(2014年度)の順位と比較し、上昇しています。

温泉地を選んだ理由のうち、雰囲気順位の順位が令和6年度(2024年度)は28位であり、北海道内では上位にランクインしています。また、第1次構想策定時と比較して、順位が上昇していることから、第1次構想に基づき実施した取組により、温泉地らしい雰囲気が向上したことが考えられます。

国内温泉地のランキング

総合順位			雰囲気順位			温泉地	所在地
H26	R6	比較	H26	R6	比較		
1	1	—	1	1	—	草津	群馬県
7	2	↑	4	2	↑	道後	愛媛県
3	3	↑	10	3	↑	下呂	岐阜県
4	4	—	7	6	↑	別府八湯	大分県
5	5	—	9	9	—	有馬	兵庫県
6	6	—	8	8	—	登別	北海道
9	7	↑	6	10	↓	指宿	鹿児島県
8	8	—	3	5	↓	黒川	熊本
10	9	↑	5	4	↑	城崎	兵庫県
12	10	↑	11	11	—	箱根	神奈川県
2	11	↓	2	7	↓	由布院	大分県
...
33	22	↑	71	37	↑	十勝川	北海道
...
35	36	↓	49	42	↑	湯の川	北海道
...
53	37	↑	45	28	↑	定山溪	北海道
...
48	52	↓	43	44	↓	阿寒湖	北海道
...
50	55	↓	94	97	↓	川湯	北海道
...
87	56	↑	84	60	↑	層雲峡	北海道
...
78	58	↑	53	54	↓	ウトロ	北海道
...
66	59	↑	60	56	↑	洞爺湖	北海道

出典：「2014 第 28 回にっぽんの温泉 100 選（観光経済新聞）」、
「2024 第 38 回にっぽんの温泉 100 選（観光経済新聞）」

【参考】上位の温泉地の特徴

草津温泉（群馬県）

草津温泉街の中心に位置する湯畑の周りには、湯もみと踊りのショーが見られる「熱乃湯」、展望デッキや漫画堂等がある「裏草津」等、まちあるきできるスポットが点在しています。



道後温泉（愛媛県）

日本三古湯のひとつである道後温泉は、小説「坊ちゃん」の舞台でもあります。近年は、「アート&クラフト」に着目し、作品展やまちあるきを楽しめるプログラム等が開催されています。



下呂温泉（岐阜県）

日本三名泉の一つと称される下呂温泉は、飛騨川流域に位置し、3つの共同浴場で外湯が楽しめるほか、無料の足湯が点在しており、浴衣で湯めぐりやまちあるきを楽しむ姿が見られます。



第3章

定山溪観光の現状

1 位置・自然環境

札幌都心から南に26 k m、札幌市南区に位置する定山溪は、支笏洞爺国立公園に指定されています。定山溪は、札幌岳や無意根山をはじめとした標高1,000m級の山々に囲まれており、エリアの中央には、札幌の母なる川である豊平川が流れています。

定山溪を囲む山々や豊かな森に降る雨雪により培われた定山溪温泉は、豊平川の川岸や川底の岩盤の割れ目から湧き出ており、溪流沿いにはホテル・旅館が数多く軒を連ね、温泉街を形成しています。

また、定山溪には、定山溪ダムのさっぽろ湖や、豊平峡ダムの定山湖があり、ダム湖とそれを囲む雄大な自然が織りなす美しい景観を楽しむことができます。



2 交通アクセス

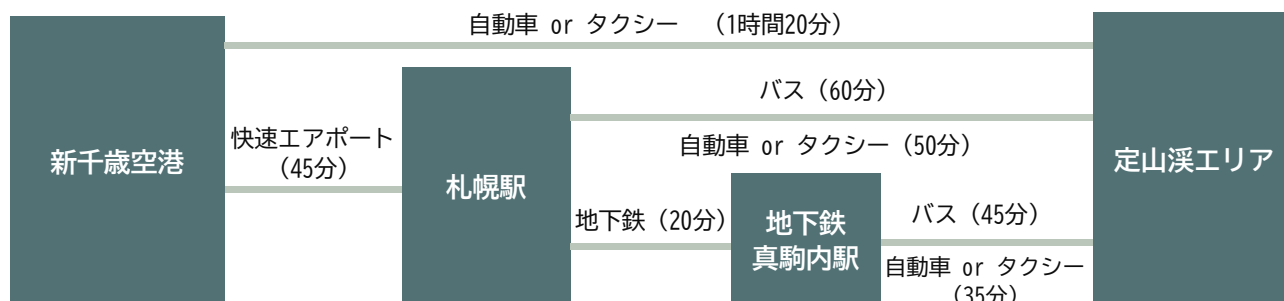
定山溪は、札幌市中心部と国道230号で結ばれており、自動車を利用して約1時間でアクセスすることができます。

自動車以外の移動手段としては、路線バス（じょうてつバス）が札幌駅及び地下鉄真駒内駅と定山溪の間を運行しているほか、札幌市街地と定山溪を結ぶ直行バス「かっぱライナー」（じょうてつバス）、札幌駅と定山溪及び洞爺湖温泉を結ぶ都市間バス（道南バス）が運行しています。

定山溪エリアにおける路線バスの運行状況について、新型コロナウイルス感染症が拡大する前後で比較した結果、札幌駅発一定山溪行の平日便を除き、コロナ禍前よりも運行本数が減少しています。特に、定山溪発一定山溪行の直行バス「かっぱライナー」は、令和元年（2019年）の7便から令和6年（2024年）には4便となり43%減少しています。コロナ禍以前からバスの運転手不足により運行本数は減少しましたが、コロナ禍以降も減少傾向にあります。

なお、じょうてつバスにおいては、札幌駅から定山溪の直行バス「かっぱライナー」や真駒内駅から定山溪方面の路線バスの拡充など、市民と観光客の双方が快適に移動できるための取組を行う予定です。

定山溪までの移動手段及び所要時間



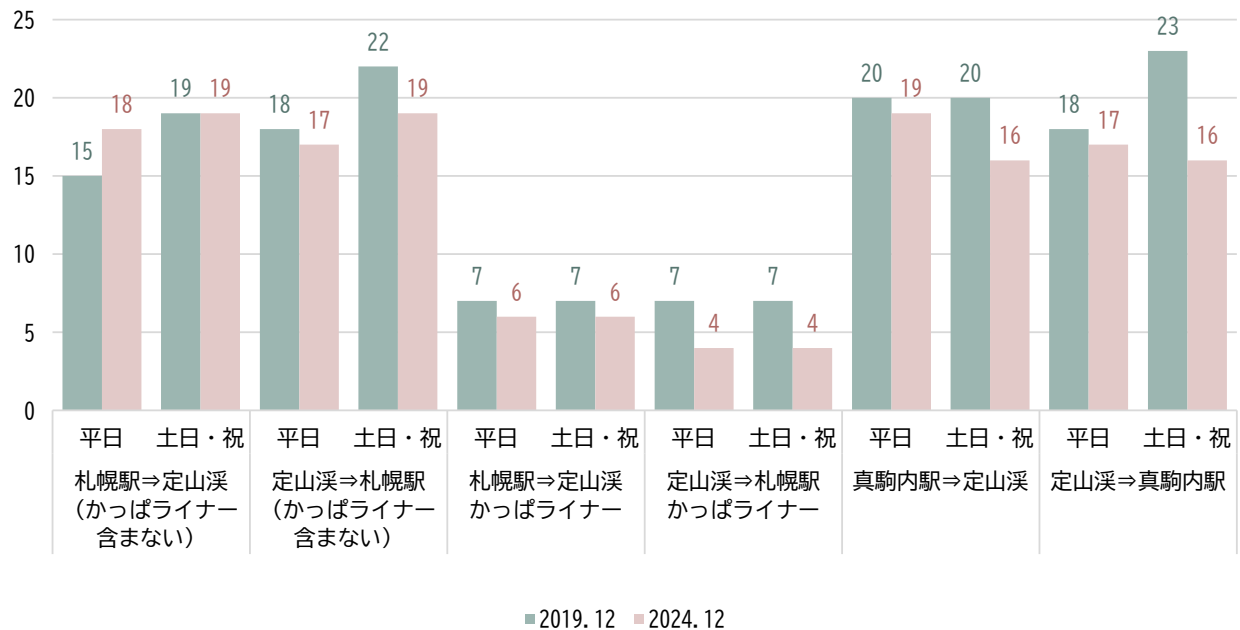
定山溪までのバスの運行状況（令和6年（2024年）12月時点）

路線バス・都市間バス・直通バス		経路	平日	土日	時間
路線バス（じょうてつバス）	札幌駅発着	札幌駅→小金湯→定山溪	18便	19便	約80分
		定山溪→小金湯→札幌駅	17便	19便	
	真駒内駅発着	真駒内駅→小金湯→定山溪	19便	16便	約45分
		定山溪→小金湯→真駒内駅	17便	16便	
都市間バス（道南バス）		札幌駅→定山溪→洞爺湖温泉	4便		約50分
		洞爺湖温泉→定山溪→札幌駅	4便		
かっぱライナー号（じょうてつバス）		札幌駅 → 定山溪	6便	6便	約60分
		定山溪 → 札幌駅	4便	4便	

出典：じょうてつバス HP、道南バス HP、ゆこゆこ HP

コロナ禍前後における札幌駅または真駒内駅～定山溪の路線バスの運行状況

(本)



出典：じょうてつバス時刻表（令和元年（2019年）年12月1日時点、令和6年（2024年）12月1日時点）

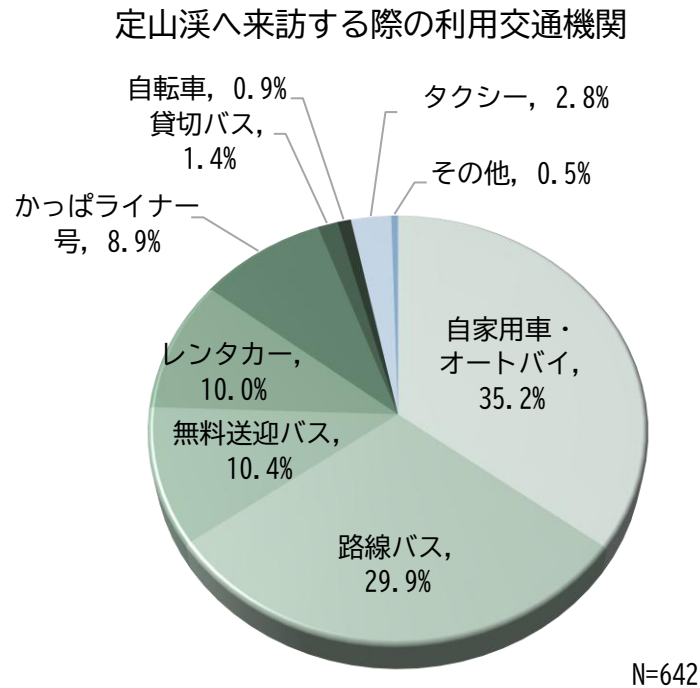
定山溪では、無料送迎バスを運行している宿泊施設もあり、札幌駅または大通、真駒内駅等と各宿泊施設を結ぶ移動手段となっています。

定山溪の各宿泊施設の無料送迎バスの概要（令和6年（2024年）5月時点）

日帰り入浴 無料送迎バス		経路	運行日	本数	駅発時刻
●豊平峡温泉	先着順、予約不可	地下鉄真駒内駅 → 豊平峡温泉	毎日運行	往復1便	真駒内中学校（フェンス周辺）
●湯の花 定山溪殿		地下鉄真駒内駅 → 湯の花	毎日運行	往復3便	真駒内駅
ホテル無料送迎バス		経路	運行日	本数	送迎バス停留所発時刻
●定山溪ビューホテル	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
●定山溪ホテル	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
●グランドプリッセンホテル定山溪	宿泊者専用	札幌駅 → プリッセンホテル	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
●奥定山溪温泉 佳松御苑	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
●定山溪 ゆらく草庵	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
●定山溪万世閣ホテルミリオーネ	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
●草月グランドホテル※	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
●ホテル鹿の湯	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
●花もみじ	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	札幌駅北口
●第一寶亭留 翠山亭	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往路3便 復路2便	大通り西5丁目
●翠山亭倶楽部定山溪	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往路2便 復路2便	大通り西5丁目
●女性のための宿 翠蝶館	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往路2便 復路2便	大通り西5丁目
●厨翠山	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往路2便 復路2便	大通り西5丁目
●翠巖	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	大通り西5丁目
●旅籠屋 定山溪商店	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	大通り西5丁目
●ぬくもりの宿ふる川	宿泊者専用	札幌駅 → ホテル	毎日運行	往復1便	大通り西1丁目
●定山溪 鶴雅リゾートスパ 森の調	宿泊者専用	地下鉄真駒内駅 → ホテル	毎日運行	往復3便	真駒内中学校グランド横
●湯元小金湯	宿泊・日帰り	地下鉄真駒内駅 → ホテル	毎日運行	往復4便	真駒内駅

※「草月グランドホテル」2024/7/1宿泊分から有料、片道500円/人、ホテルへの電話予約、公式ホームページからの予約の場合は無料

定山溪に訪れた方の主な移動手段は、「自家用車・オートバイ」が最も多く、次いで「路線バス」、「無料送迎バス」となっています。



出典：「令和6年度（2024年度）（秋・冬）定山溪地区観光客動態調査（札幌市）」

【データに関する説明】

・令和6年（2024年）10月25日・26日及び令和7（2025年）2月9日・10日に、定山溪に訪れた観光客への聞き取り調査及び宿泊施設利用者へのアンケート調査の結果である。

3 歴史

定山溪の歴史は古く、慶応2年（1866年）に修験僧・美泉定山（みいずみじょうざん）がアイヌの人々の案内で泉源と出会った時に始まり、幾多の困難を乗り越え温泉の礎を築いた定山の功績から、この地が「定山溪」と命名されました。

定山没後も、恵まれた自然環境と、豊富で良質な温泉とともにまちは発展し、開湯から130年にあたる平成8年（1996年）には「健康保養地宣言」を行っています。令和5年（2023年）には国道230号線石山～定山溪間の4車線拡幅工事が完了し、道路混雑の緩和や交通量の増加がみられ、札幌からのアクセス性が向上しました。

【定山溪の沿革】

年	沿革
安政5年（1858年）	松浦武四郎が山道開削のため、虻田を経て豊平まで調査をする（定山溪に一泊）
慶応2年（1866年）	美泉定山がアイヌの道案内で温泉を認め、湯治場をつくる
明治4年（1871年）	定山が岩村判官から湯守りを命じられる。東久世長官がこの地を「定山溪」と命名
明治9年（1876年）	定山が小樽～定山溪間の山道を開くため測量を開始
明治10年（1877年）	定山行方不明後、入滅
明治20年（1887年）	小金湯温泉始まる
明治24年（1891年）	定山溪に駅通所設置
明治38年（1905年）	定山溪神社創設、月見橋完成
明治40年（1907年）	定山溪発電所完成、送電を開始
大正7年（1918年）	定山溪鉄道開通
大正12年（1923年）	小樽新聞が公募した北海道三景に選ばれる
大正13年（1924年）	初のガイドブック「定山溪仙境」発行される
昭和11年（1936年）	岩戸観音堂建立
昭和24年（1949年）	支笏洞爺国立公園に指定
昭和36年（1961年）	札幌市定山溪となる（札幌市・豊平町合併）
昭和40年（1965年）	かっぱ祭り始まる。温泉街ロードヒーティング完成
昭和44年（1969年）	定山溪鉄道廃止
昭和47年（1972年）	南区定山溪となる（政令指定都市移行）、豊平峡ダム完成
昭和53年（1978年）	札幌国際スキー場オープン
平成元年（1989年）	定山溪ダム完成
平成3年（1991年）	メルヘンかっぱ像完成
平成8年（1996年）	開湯130年・健康保養地宣言をする
平成13年（2001年）	かっぱ家族の願かけ手湯、長寿と健康の足つぼの湯完成
平成15年（2003年）	足のふれあい太郎の湯完成
平成17年（2005年）	定山源泉公園完成
平成28年（2016年）	開湯150周年記念事業開催・JOZANKEI NATURE LUMINARIE スタート
令和5年（2023年）	国道230号線石山～定山溪間の4車線拡幅工事の完了
令和6年（2024年）	四季のせせらぎ二見の足湯完成

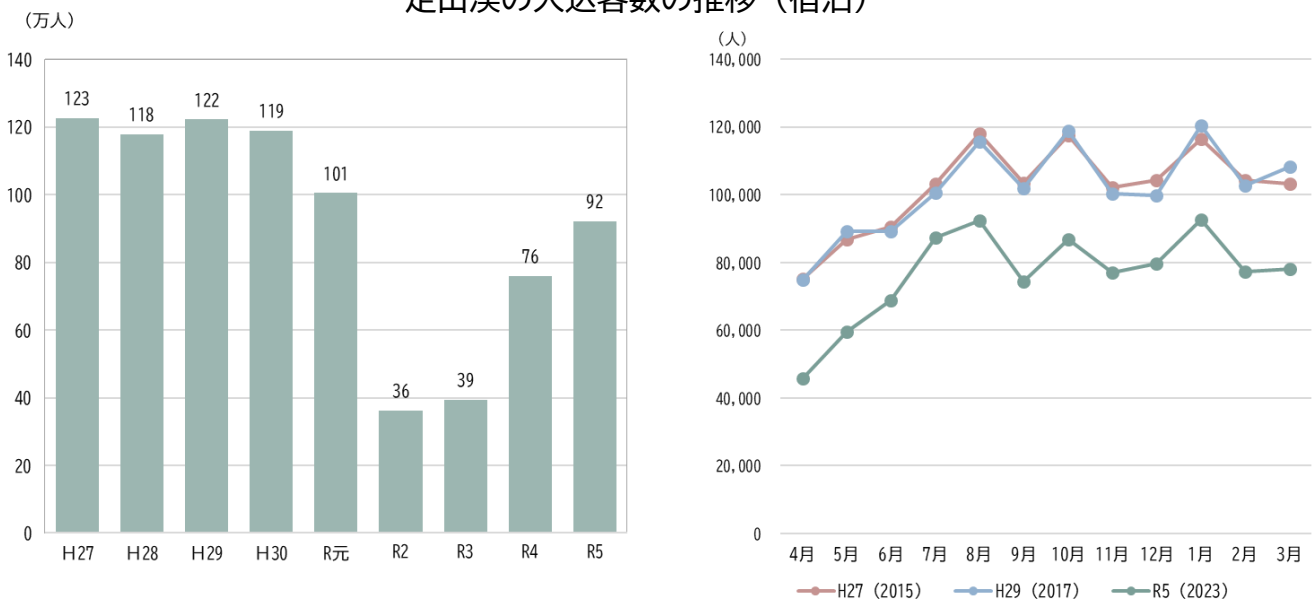
4 観光入込動向

定山溪の宿泊客数は、平成27年度（2015年度）以降横ばいで推移しており、コロナ禍前の平成29年度（2017年度）は122万人でした。その後、コロナ禍により大きく宿泊客数が落ち込みましたが、令和5年度（2023年度）は92万人まで回復しており、回復基調が明確に見られます。

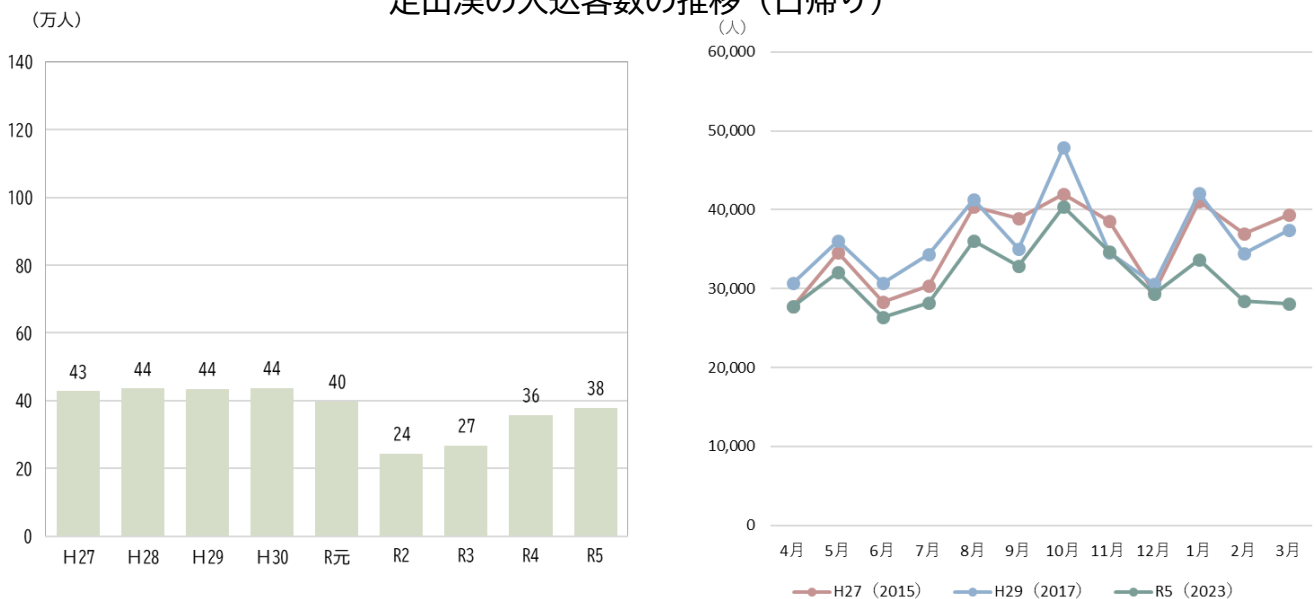
また、定山溪の日帰り客数は、コロナ禍前の平成28年度（2016年度）～平成30年度（2018年度）が44万人と、平成27年度（2015年度）以降で最も多くなっています。令和5年度（2023年度）は38万人で、平成30年度（2018年度）と比較して86%まで回復しています。

宿泊、日帰りのいずれも、月別の推移をみると、8月、10月、1月にピークが見られますが、どちらも4月に落ち込む傾向にあります。

定山溪の入込客数の推移（宿泊）



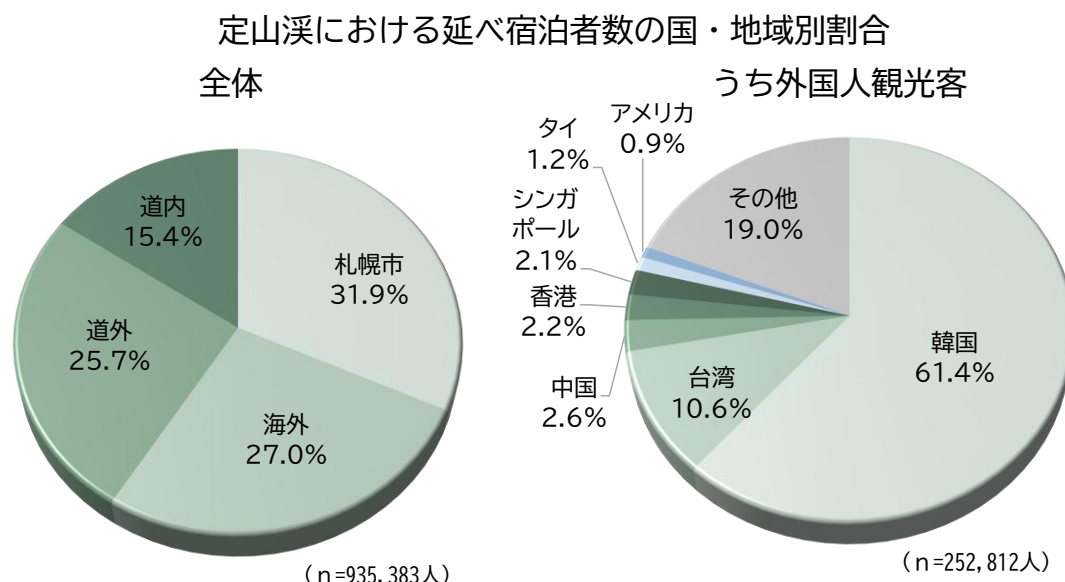
定山溪の入込客数の推移（日帰り）



※月別の入込客数の推移は、第1次構想を策定した年度（H27）、コロナ禍前（H29）、直近（R5）のものを比較

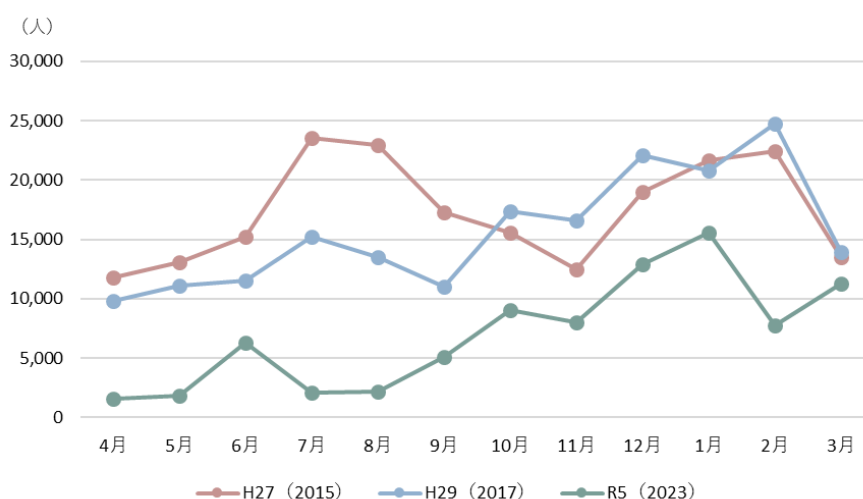
出典：札幌市

定山溪温泉旅館組合が実施した調査結果によると、令和5年度（2023年度）の定山溪の宿泊延べ人数は、札幌市民が3割と最も多く、次いで、海外、道外、道内の順となっています。定山溪を訪れる外国人観光客は、韓国が6割と最も多く、次いで台湾が1割を占めており、その他には中国、香港、シンガポール、タイ、アメリカからも来訪しています。



出典：令和5年度（2023年度）定山溪温泉旅館組合調査

定山溪の外国人延べ宿泊者数の推移



※調査回答のあった宿泊施設のみを集計（H27:8割、H29:7割、R5:4割の回答）

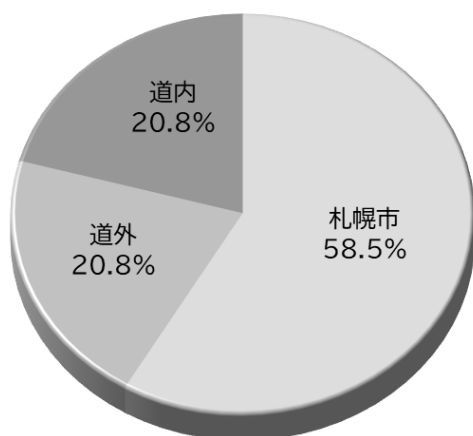
出典：札幌市

また、第1次構想策定時（平成24年度（2012年度）、平成25年度（2013年度））と令和5年度（2023年度）の宿泊者の国・地域別割合を比較すると、第1次構想策定時は日本人宿泊者の5割以上が札幌市民でしたが、令和5年度（2023年度）は5割を下回っています。

また、第1次構想策定時の外国人観光客は台湾、中国、韓国の順に多い状況でしたが、令和5年度（2023年度）は、韓国、台湾、中国の順に多い状況であり、定山溪温泉の客層が変化していることがわかります。

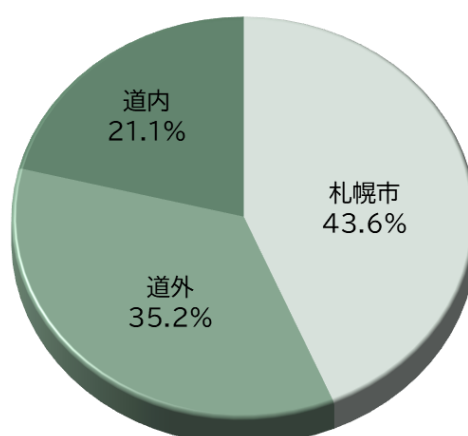
定山溪における日本人宿泊者居住地

平成24年度（2012年度）



出典：定山溪の魅力に関するアンケート調査(平成25年3月)

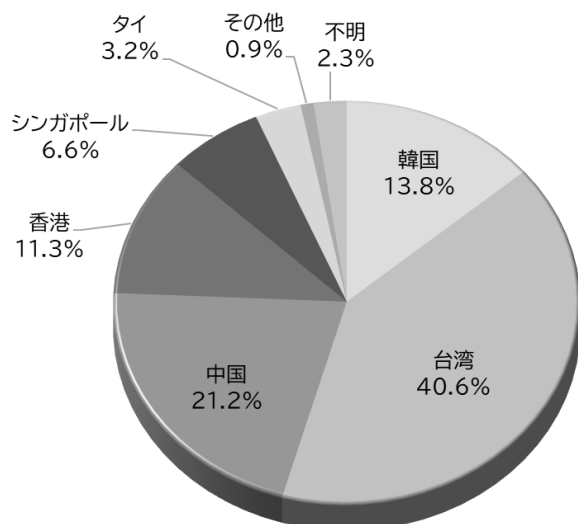
令和5年度（2023年度）



出典：令和5年度（2023年度）定山溪温泉旅館組合調査

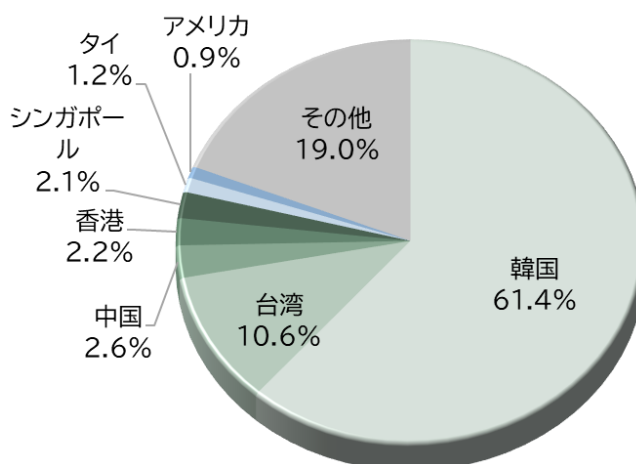
定山溪における外国人観光客（延べ宿泊者数）の割合

平成25年度（2013年度）



出典：平成25年度（2013年度）札幌市が行った宿泊施設調査

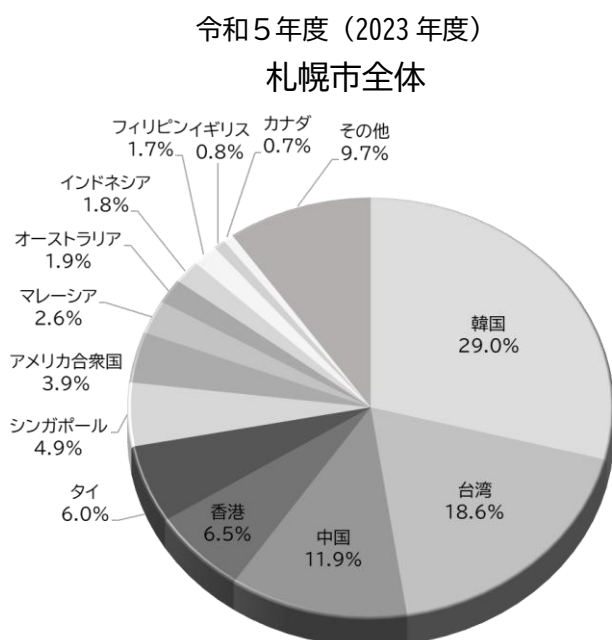
令和5年度（2023年度）※再掲



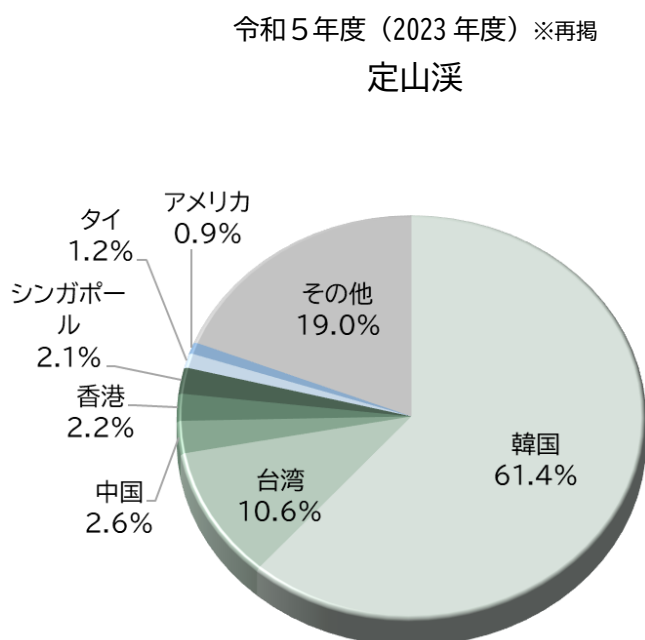
出典：令和5年度（2023年度）定山溪温泉旅館組合調査

令和5年度（2023年度）における、札幌市全体と定山溪の外国人観光客の構成を比較した場合、訪れる観光客の国籍に特徴の違いが見られます。札幌市全体では東アジアの割合が高くなっていますが、定山溪では韓国の割合が6割と特に高くなっています。

札幌市・定山溪における外国人観光客（延べ宿泊者数）の割合



出典：「札幌の観光（札幌市）」

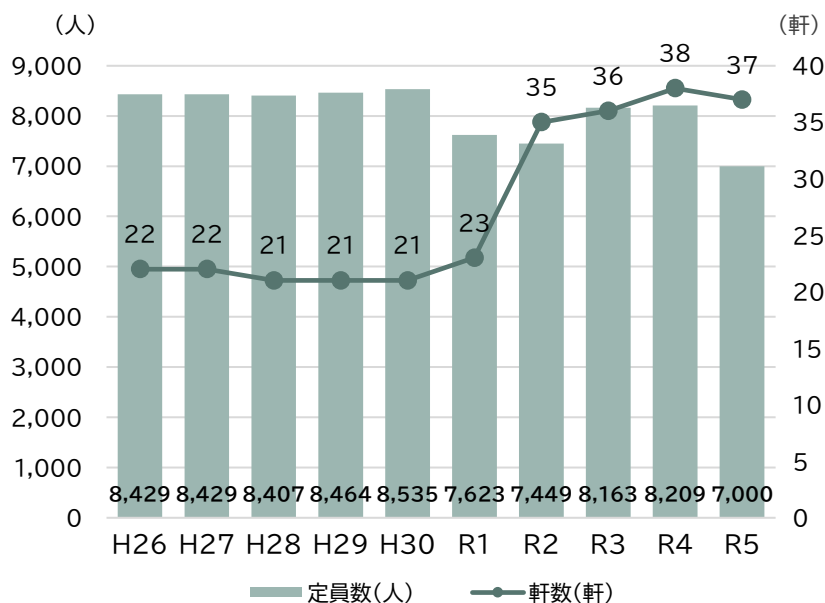


出典：令和5年度（2023年度）定山溪温泉旅館組合調査

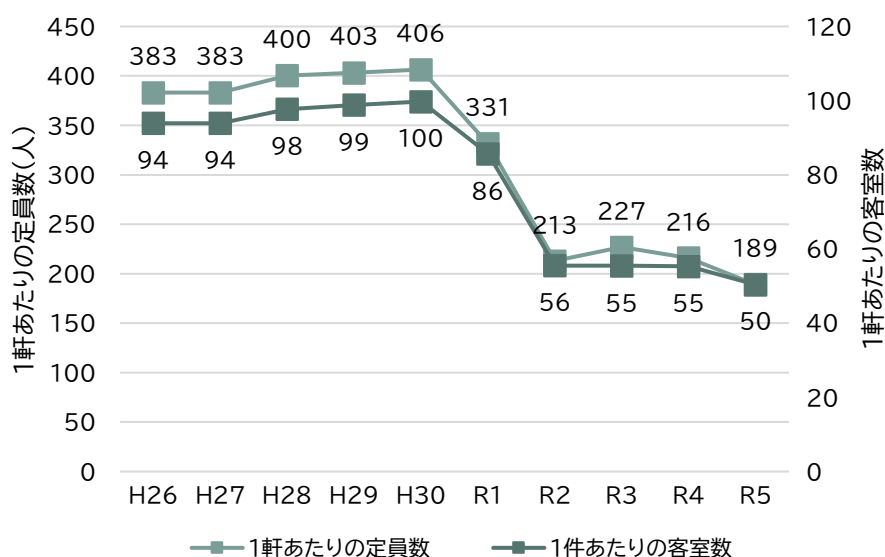
5 定山溪の宿泊施設の状況

定山溪の宿泊施設の軒数は、平成30年度（2018年度）の23軒から令和5年度（2023年度）には37軒と増加する一方、定員数は平成30年度（2018年度）の8,535人から令和5年度（2023年度）の7,000人と減少しています。また、1軒あたりの定員数・客室数は減少傾向にありますが、大型ホテルの休業や各施設の高付加価値化※が要因であると考えられます。

定山溪の宿泊施設の軒数・定員数の推移



定山溪の宿泊施設の1軒あたりの定員数・客室数



出典：「札幌の観光（札幌市）」

※ 各施設の高付加価値化：令和4年度から実施された観光庁事業（地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化）を活用した施設は11施設

6 観光資源

定山溪には、自然・文化、温泉、アクティビティ、食・土産といった様々な観光資源があります。

自然・文化

支笏洞爺国立公園内に位置する定山溪は、エリアの中央を流れる雄大な豊平川と、それを囲む緑豊かな溪谷が特徴的です。定山溪周辺には、標高1,000m前後の山が連なり、紅葉の時期になると溪谷や山々が鮮やかに色づきます。

また、定山溪には、豊平峡ダムや定山溪ダム、三笠緑地、小金湯さくらの森などの自然を生かした観光資源のほか、アイヌ民族の生活・文化を学ぶことができる施設もあります。



紅葉

温泉

定山溪には、定山溪温泉（ナトリウム塩化物泉「熱の湯」）、小金湯温泉（単純硫黄泉・弱アルカリ性「心臓の湯」）、豊平峡温泉（重曹泉「美人の湯」）、薄別温泉（カルシウム・ナトリウム-炭酸水素塩泉「美人の湯」という泉質が異なる4つの温泉があります。

また、令和6年（2024年）に開湯した「四季のせせらぎ 二見の足湯」を含む公共の無料足湯が3箇所と、手湯が1箇所あり、気軽に湯めぐりを楽しむことができます。



定山溪温泉

アクティビティ

定山溪の自然を生かしたアクティビティが充実し、カヌーやSUP、サイクリング、登山などを楽しむことができます。

冬季のアクティビティも充実しており、スノーシューや、雪見ラフティングなどの体験ができるほか、札幌国際スキー場では道内屈指のパウダースノーでスキーやスノーボードを楽しむことができます。



（出典：観光協会 HP）

冬のラフティング

食・土産

定山溪には、カレー・そば・ラーメンをはじめとした定番の食事処や、最新のレストラン、カフェ、スイーツ店などがあります。

令和3年（2021年）以降12軒の飲食店が新たに開業しており、飲食店を目的に定山溪を訪れる日帰り客も増えて、定山溪グルメの人气が高まっています。

土産品は、温泉まんじゅう、「たまねぎすうぷ」のほか、アップルパイなども定番です。



（出典：山ノ風マチ HP）

山ノ風マチ

定山溪の観光資源MAP



① 二見公園



② 四季のせせらぎ 二見の足湯



③ 岩戸観音堂



⑦ 二見吊橋



⑧ 湯の滝

凡 例	
■	自然
■	温泉・足湯など
■	アクティビティ
■	土産
▼ ▼	飲食 (赤:2021年以降閉業)
■	その他



⑩ 赤岩の澗 (あかいわのかん)



⑬ 豊平峡ダム



⑭ かつぱ家族の願かけ手湯



⑮ 定山溪神社



④ 定山源泉公園



⑤ 三笠緑地



⑥ 札幌国際スキー場



⑨ 定山溪ダム



⑪ 白糸の滝



⑫ ピリカコタン



⑬ 足のふれあい太郎の湯



⑭ 舞鶴の瀬（まいづるのほとり）



⑮ 小金湯さくらの森

7 第1次構想の振り返り

第1次構想では以下に示す3つの成果指標を掲げ、次頁に示す4つの基本方針に基づき、定山溪における観光魅力アップの目指す将来像の実現に向けた取組を推進しました。

これらの成果指標の達成状況について、「温泉街の街並みに魅力があると感じる人の割合」及び「周辺観光スポットが充実していると感じる人の割合」は、第1次構想期間中の取組（P25～P27）により、いずれも基準値より上昇しており、確実に成果が出ていますが、目標値には及びませんでした。

また、「定山溪地域の延べ宿泊者数」については、目標値から50万人以上下回る結果となりましたが、その要因として、大規模宿泊施設の廃業や、旅行形態の変化に合わせた宿泊施設の高付加価値化に伴う客室数の減少等と共に、令和6年度(2024年度)はコロナ禍からの観光需要の回復途上にあたることが挙げられます。

【第1次構想で掲げる成果指標】



成果指標	基準値※1	目標値	実績値※2
定山溪地域の延べ宿泊者数	1,197千人	1,450千人	925千人
温泉街の街並みに魅力があると感じる人の割合	42.2%	60.0%	55.9%
周辺観光スポットが充実していると感じる人の割合	39.3%	60.0%	46.6%

※1 基準値の「定山溪地域の延べ宿泊者数」は平成25年度（2013年度）、それ以外は平成24年度（2012年度）の実績値を採用。

※2 令和6年度（2024年度）実績値

第1次構想における基本方針とその方向性及び主な取組実績

基本方針及び方向性	主な取組とその実績
基本方針1 温泉街らしさにぎわいづくり	
1. 温泉施設や観光スポットなどの環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・足湯、定山源泉公園などの改修 実績：太郎の湯のバリアフリー化、四季のせせらぎ二見の足湯の整備、「定山溪温泉かわまちづくり計画」（P26参照）登録など ホテル跡地に「二見の足湯」新築（R6年度） <div data-bbox="582 512 1179 748" data-label="Image"> </div> ・安全・安心で美しい環境を保つための温泉施設の整備・改修 実績：二見吊橋の修繕、二見公園内のトイレ改修など ・散策路の再整備 実績：二見定山の道の整備 ・サインの改修（老朽化、多言語対応など） 実績：案内板などの観光サインを再整備 [H29～:16基整備] ・歴史や自然などの説明サインや散策路の誘導サインの整備 実績：QRコードを活用した観光スポットナビの整備 [R2～:44箇所] など <div data-bbox="772 1164 1075 1191" data-label="Caption"> <p>QRコードを掲載したサイン</p> </div> <div data-bbox="552 1205 1283 1440" data-label="Image"> </div> ・スポーツ公園にある駐車場を活用した集客交流拠点施設の整備 実績：なし (集客交流拠点施設整備に係る経済効果等調査の実施(コロナ禍により検討中断。その間、日帰り用駐車場の不足など新たな課題が発生)) <div data-bbox="464 1686 1377 1753" data-label="Text"> <p>日帰り駐車場及び拠点施設の整備に向けた検討・実施が必要</p> </div>
2. 美しい都市型温泉観光地としての景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な街並みや賑わいを感じる活動などにより景観的な魅力を高めるガイドラインの策定 実績：「定山溪地区景観まちづくり指針」（P29参照）の策定 ・国道230号線における電線の地中化の検討 実績：国道230号線の拡幅、電線地中化・電柱抜柱

基本方針及び方向性	主な取組とその実績
	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉街における「和」の雰囲気づくり 実績：「定山溪地区景観まちづくり指針」に基づいた補助事業の活用による宿泊施設や、飲食店（例：若者などに人気の飲食店が集積する山ノ風マチエリア）の改修への支援 [H29～:47件]、二見公園トイレ改修、二見の足湯整備 老朽化した「二見公園トイレ」改修（R3 年度） <div data-bbox="625 477 1187 683">  </div> <div data-bbox="518 694 1287 763"> <p>温泉街らしさの雰囲気づくりは今後も取組が必要</p> </div>
3. 温泉街における賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗・空き地などの活用や店舗の誘致促進 実績：補助事業の活用による定山溪での新規出店 [H27～:4 軒] ・周遊を促すための定山溪ぶらり手形のさらなる活用や充実 実績：かっぱんラリー [H27～:27,074人(累計参加者数)] や、かっぱん BINGO [R5～:5,473人(累計参加者数)] の実施
基本方針2 広域的なネットワーク化による新たな魅力創出	
1. 新しい魅力エリアの形成	<ul style="list-style-type: none"> ・パン屋やカフェなどの食の魅力スポットの観光資源としての活用 実績：補助事業の活用による定山溪での新規出店 [H27～:4 軒]
2. 温泉街を拠点とした周辺観光資源との回遊性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティなどの周辺観光資源の情報集約と情報発信 実績：HP や SNS での発信による情報発信の強化、補助事業の活用によるアクティビティメニュー(例：豊平川の SUP 体験など)の新規造成・レベルアップへの支援 [R4～:11件] <div data-bbox="403 1355 1436 1561">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺観光資源を巡る周遊バスやレンタサイクルの検討 実績：紅葉かっぱバス運行 [H27～:42,504人(累計利用者数)] など
3. 定山溪エリアまでの交通アクセスの魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・直行バス「かっぱライナー」の充実 実績：かっぱライナー車体ラッピングの実施、定山溪観光協会 HP におけるアクセス手段の紹介。バス運転手不足解消の目途は立っていない。 <div data-bbox="443 1899 1393 2004"> <p>令和5年度(2023年度)より、路線バスに住民の乗り残しが発生。バス減便等を踏まえ交通アクセスの充実は今後も取組が必要</p> </div>

基本方針及び方向性	主な取組とその実績
<p>4. 年間を通じた集客イベント事業の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の春夏秋冬の各イベントの充実 実績：ルミナリエ [H28～:581,260人(累計来場者数)] や雪灯路 [H27～:88,513人(累計来場者数)] の実施など <div data-bbox="497 360 930 607"></div> <div data-bbox="948 360 1380 607"></div> <ul style="list-style-type: none"> ・開湯150周年イベントやプレイベントの実施及び記念誌制作 実績：定山溪温泉歓迎塔リニューアルや記念誌の発行など
基本方針3 魅力を伝える情報発信・インフォメーションの強化	
<p>1. 知名度アップ及びイメージ構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定山溪温泉PR隊長「かっぼん」の活用 実績：かっぼんグッズの制作・販売、各種イベント参加など <div data-bbox="561 842 842 1055"></div> <div data-bbox="906 842 1187 1055"></div> <ul style="list-style-type: none"> ・ツールを多言語化 実績：HP、SNS、公式パンフレットの多言語化など <div data-bbox="523 1151 1327 1223" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">道外や海外における知名度アップは今後も取組が必要</div>
<p>2. 到着後のサポート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まち歩きや体験活動の発着地としての拠点化 実績：観光案内所移転によるまち歩きの案内増加
基本方針4 魅力アップの担い手育成とマネジメント	
<p>1. おもてなしを支える人材育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光案内所を活用したホテル従業員への講習や研修の実施 ・地域住民やホテル従業員による観光ボランティアの育成 実績：セミナー開催、定山溪検定の実施(累計受験者数：287人/合格者数：239人) ・関係者が一体となった温泉街の草刈りなどの環境美化活動の推進 実績：地域における「ゴミ0」運動の実施 <div data-bbox="523 1644 1327 1715" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">定山溪の来訪者が満足できるような景観づくりが必要</div>
<p>2. 定山溪ファンやサポーターづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSなどを活用した定山溪ファンづくり 実績：Instagram、Facebook、Xを活用した情報発信など (令和6年(2024年)6月時点フォロワー： Instagram 1.6万人、Facebook 6,960人、X 7,700人)

■ 「定山溪温泉かわまちづくり計画」について

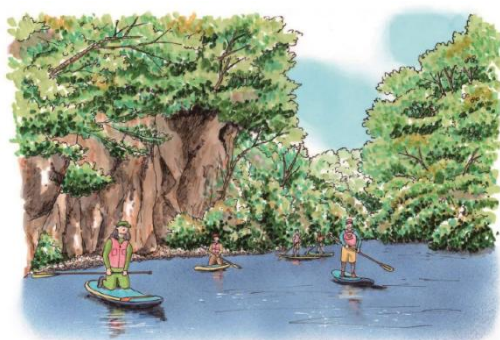
「かわまちづくり」とは、地域の賑わい創出や、観光振興などを目的に、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組のことです。国土交通省では、「かわまちづくり」支援制度を設け、地域の「かわまちづくり」の取組を推進しています。

豊平川沿いに温泉街を形成する定山溪温泉において、周辺の豊かな自然を活かした新たな魅力づくりの一環として「かわまちづくり」に取組むべく、令和5年(2023年)7月に、定山溪観光協会、学識経験者、札幌市などを構成員とする「定山溪地区(豊平川)かわまちづくり協議会」を設立し、「定山溪温泉かわまちづくり計画」を策定しました。「定山溪温泉かわまちづくり計画」は、令和6年(2024年)8月に、国土交通省の「かわまちづくり」支援制度に登録されています。

「定山溪温泉かわまちづくり計画」では、定山溪温泉街の月見橋や二見吊橋周辺における親水護岸・公園整備などのハード施策と併せて、錦橋下流から二見吊橋までの計画範囲における各種イベント開催などのソフト施策を進めます。



ハード施策例	北海道：親水護岸、管理用通路整備
	札幌市：観光施設整備（足湯、公園、市道など） 観光協会：案内施設整備
ソフト施策例	北海道：都市・地域再生等利用区域の指定
	札幌市：プロモーション 観光協会：イベント開催

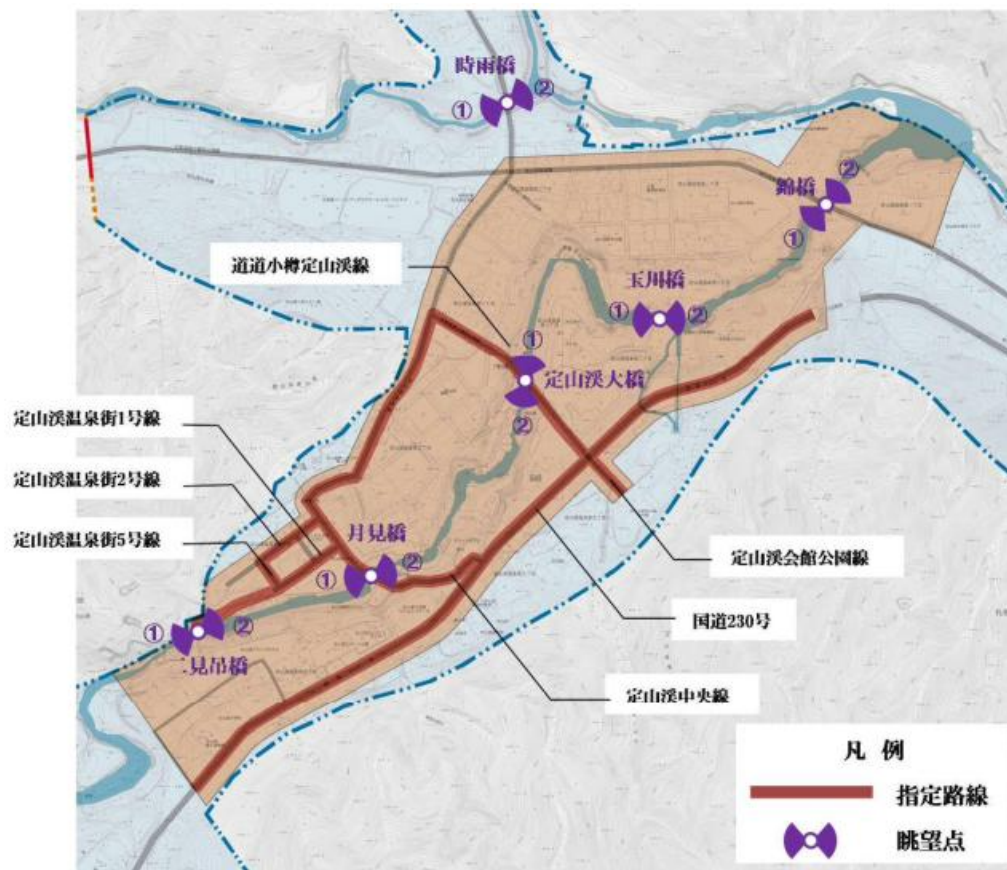


■ 「定山溪地区景観まちづくり指針」の概要

第1次構想の基本方針1に掲げる「温泉街らしさやにぎわいづくり」を実現するため、定山溪地区の特性に応じた魅力的な景観形成を推進すべく、地域住民及び事業者等と札幌市の協働により、平成29年（2017年）6月に「定山溪地区景観まちづくり指針」を策定しました。

定山溪地区景観まちづくり指針では、温泉地として良好な景観形成に向けた取り組みを段階的に推進する「景観まちづくり推進区域（＝下図の水色のエリア）」と、温泉観光地としての魅力的な景観づくりを進める上で地域住民や事業者等が特に重要と感じている「景観誘導区域（＝下図のオレンジ色のエリア）」を定めています。

また、主に景観誘導区域のうち、特に重要となる路線を「指定路線」、定山溪の特徴である溪谷を中心とした美しい景観を一望できる場所を「眺望点」として位置づけ、魅力的な景観形成を推進しています。



※ここで定めた眺望点については一部歩道がない地点も含まれますが、歩行者からの眺めだけでなく、車窓からの眺めなど様々な状況を想定し、定山溪地区において地域の皆さんが景観上重要だと感じている溪谷美を守り生かすために設定したものです。

8 定山溪エリア内の事業者に対するヒアリング調査結果

温泉観光地としての定山溪の魅力と課題を把握する為に、定山溪内で事業を展開している事業者に対し、ヒアリング調査を実施しました。ヒアリング調査結果の概要を以下に示します。

■定山溪の主な魅力

- 定山溪は札幌の都心部に近く、1時間程度で気軽にアクセスできる。
- 定山溪の温泉の泉質が良い。
- 定山溪周辺には、八剣山や札幌国際スキー場等、少し足を延ばせば多くのコンテンツがある。
- 札幌市内でありながら、支笏・洞爺国立公園として自然も多く残っているというのは魅力的。

■定山溪における主な課題

- 全国的なバスの運転手不足が進む中、今後も定山溪と札幌市内を結ぶ交通網（バス）を維持していく必要がある。
- 各温泉宿泊施設で無料送迎バスを運行しているが、人手不足と経営面から運行を維持するのが困難である。
- 日帰り客が利用できる公共の駐車場が少ない。
- 定山溪内を巡るための交通手段がない。
- 定山溪をさらに周遊してもらうには、昼食を食べる場所が限られている。
- 温泉を可視化できるものがほぼなく、温泉地を訪れたと観光客が感じにくい。
- 定山溪温泉街の地域内の清掃を含めた景観整備が重要。どの部分を緑化するか等を戦略的に考える必要がある。
- 多様な観光客に楽しんでもらえるよう、エリア分け（例：温泉街エリアや自然散策エリア）が必要。
- 定山溪は札幌市民を含めた道民には広く認知されているが、道外や海外にはあまり認知されていない。
- 定山溪でのアクティビティのイメージがない。自然景観が綺麗な場所だと知られていない。
- 定山溪と言えば「〇〇」というものがない。
- 定山溪で宿泊する人は、宿泊施設で完結しており、まちあるきをしていない。

9 現状の分析

第2章及び第3章1～8に記載の統計データ及びヒアリング調査結果、定山溪地区における観光客動態調査の結果、第1次構想の振り返りを基に、定山溪の現状の特徴を以下に整理しました。

① 国内人口の減少、海外市場の拡大

定山溪の宿泊客数は、コロナ禍以前はほぼ横ばいで推移していましたが、今後は人口減少や高齢化が進行するとともに、国内宿泊観光旅行の参加率が低下傾向にあることから、国内需要の減少が懸念されます。

一方、国内市場とは対照的に、世界の観光市場は、長期的に拡大すると見込まれています。(P5参照)

② 客層の変化

観光市場が成熟し、個人手配の一人旅や少人数旅行が増える中、外国人観光客、特に韓国からの宿泊者が大幅に伸びており、2023年度は定山溪でその割合が非常に高くなるなど、旅行の形態と観光客の構成に変化が見られます。また、札幌から1時間程度でアクセスできる立地、SNS 映えする豊かな自然や温泉という魅力の組み合わせが、個人旅行を好む韓国観光客のニーズに合致しているためと考えられます。(P6、P16～P18参照)

③ 魅力的な景観形成に向けた取組

平成29年（2017年）6月に策定した「定山溪地区景観まちづくり指針」に基づき、施設整備時等における景観への配慮が行われています。

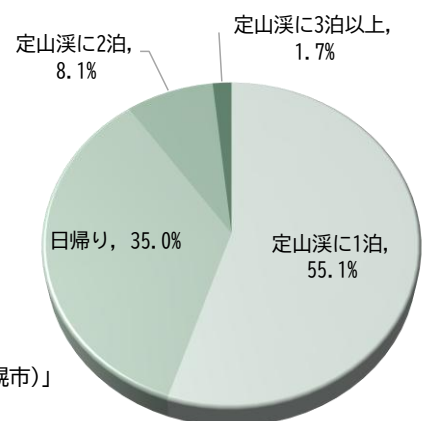
しかし、定山溪地区観光客動態調査からも、廃業したホテルの景観に関する意見などが多数あり、現状では目標が達成できておらず取組は十分ではありません。(P24参照)

④ 滞在時間の短さ

定山溪への来訪客の多くは、札幌都市圏などから訪れた日帰り客または1泊のみの宿泊客です。

また、宿泊客の多くは、夕方に到着して、翌朝には出発する行動が多いほか、宿泊施設以外で行動することが少ない傾向にあります。

定山溪エリアにおける滞在時間



出典：「令和6年度（秋・冬）定山溪地区観光客動態調査（札幌市）」

⑤ 定山溪の顔となるような特徴的なイメージの弱さ

定山溪には、草津温泉の「湯畑」や、登別温泉の「地獄谷」、「鬼」というようなシンボリックなものはありませんが、多種多様な魅力的なスポットやアクティビティコンテンツ等があります。(P30参照)

⑥ 定山溪エリアとしての誘客戦略

定山溪には施設の規模や価格帯も含めて多種多様な宿泊施設が立地しています。

また、近年、カフェやスイーツ店、パン屋などの若者に人気の飲食店の新規出店や、アクティビティ事業者の進出などにより、楽しみ方の選択肢が増えてきており、幅広い客層が来訪しています。(P26参照)

一方で、定山溪エリアとしてターゲットを絞った戦略を立てることの難しさもあります。

⑦ 定山溪までの交通アクセス

定山溪を訪れる観光客の移動手段は、約半数が自家用車又はオートバイ、約3割が路線バス等（路線バス及びかっぱライナー）、約1割が宿泊施設の送迎バスとなっています。

路線バス等は近年、運転手不足等により運行本数が減少しています。コロナ禍後の観光客数の増加や個人旅行の増加もあり、時期や路線によっては、非常に混雑する場合があります。また、宿泊施設が運行する送迎バスについても、運転手不足などから維持が困難と考える宿泊施設もあります。(P11～P13参照)

⑧ 定山溪エリア内の交通手段及び駐車場の不足

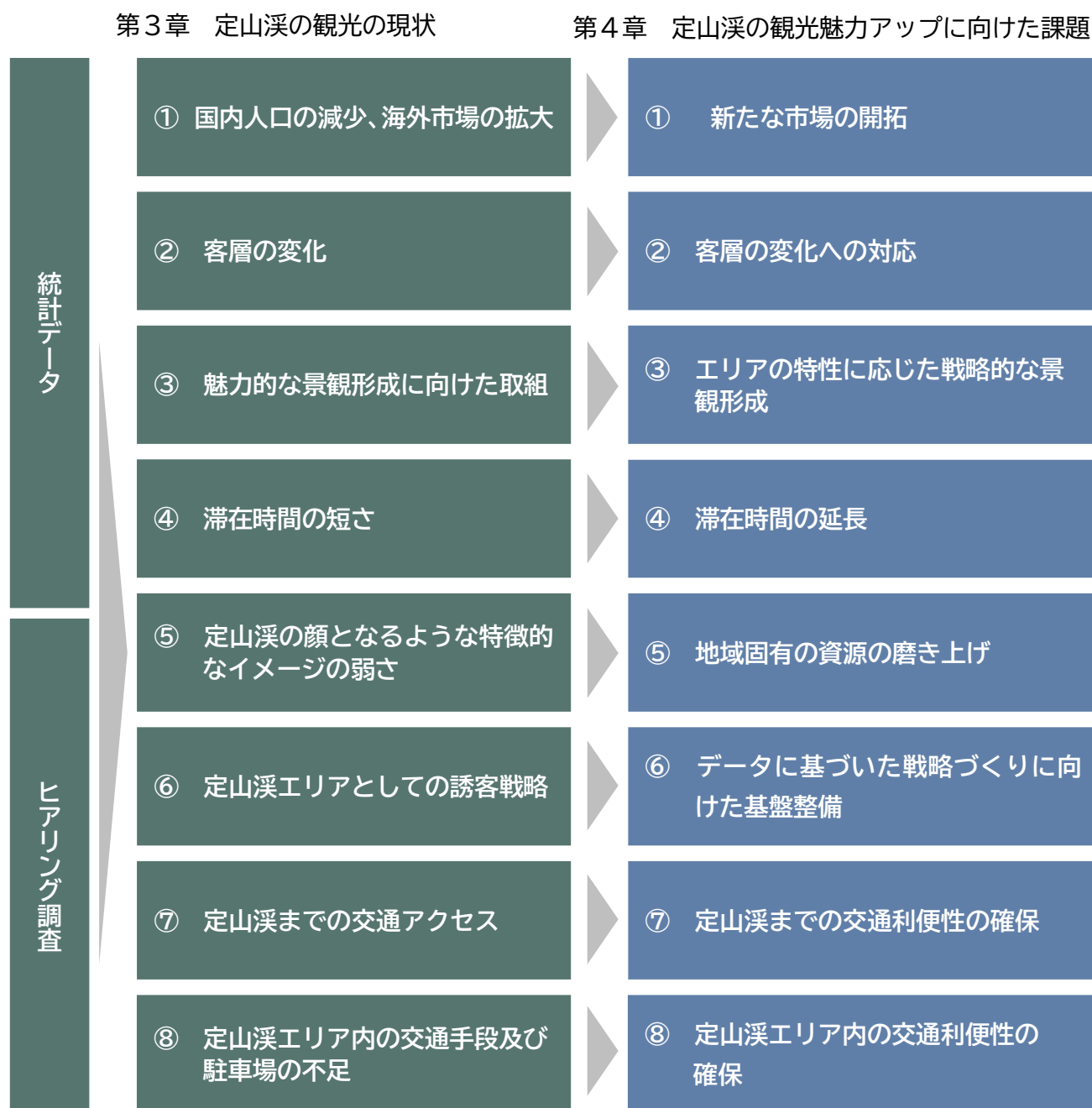
支笏洞爺国立公園に立地し豊かな自然に囲まれている定山溪では、カヌーや SUP、ラフティング、登山、トレッキング、札幌国際スキー場でのスキー等、四季を通じて様々なアクティビティを楽しむことができます。

一方、定山溪温泉街から札幌国際スキー場や豊平峡ダム等の周辺の観光拠点を結ぶ交通手段が限られています。また、日帰り客や、宿泊前、宿泊後の方が利用できる駐車場が不足しています。(P11～P13参照)

第4章

定山溪観光の課題

第3章の定山溪観光の現状を踏まえ、今後の定山溪の観光魅力アップに向けて、以下の課題への対応が求められます。



① 新たな市場の開拓

札幌市民をはじめとした北海道民に古くから親しまれてきた定山溪ですが、需要を支えてきた道内人口は日本全体より早いペースで減少すると予測されています。今後も需要を確保していくためには、日本人観光客はもとより外国人観光客や、アクティビティやグルメなどを目的とした日帰り客の誘客拡大を含めた新たな市場開拓が必要です。

② 客層の変化への対応

個人旅行の増加や外国人観光客の来訪による客層の変化が進んでいることから、地域内にある資源を活用しながら、観光客のニーズの変化、多様化に対応した観光地づくりを進めていく必要があります。

③ エリアの特性に応じた戦略的な景観形成

定山溪温泉街には、二見公園や三笠公園などの緑地、足湯などの休憩スポット、さらには赤岩の澗や舞鶴の瀬などの美しい溪谷、二見吊橋や定山溪大橋などの眺望スポットなど多種多様な観光資源が点在しています。

定山溪温泉街全体の魅力を高めていくためには、こうした観光資源が所在するエリア別の特性に応じて、定山溪景観まちづくり指針の考え方を反映した戦略を立て、面的に景観形成を進めることが重要です。また、景観形成は長期的な視野を持ち、継続して取組を進めていくことが重要であるため、取組を推進する体制の整備も課題です。

④ 滞在時間の延長

観光地として持続可能であるためには、様々な魅力を提供することで滞在時間を延長し、来訪客一人当たりの観光消費額の拡大を図ることが重要です。新たなコンテンツの展開や各コンテンツを組み合わせた過ごし方の提案などにより、滞在時間の延長を図る必要があります。

⑤ 地域固有の資源の磨き上げ

観光地としての定山溪の魅力を高めていくためには、他の観光地では代替できない定山溪固有の魅力をいかに高め、観光客に提供していくかという視点が重要です。そのためには、地域内にある多様な観光資源の価値を改めて見つめ直すとともに、磨き上げていくことが求められます。

⑥ データに基づいた戦略づくりに向けた基盤整備

幅広い客層が来訪する定山溪において、地域が一丸となって誘客に取り組んでいくためには、ターゲットとする客層を定めて戦略を立てる必要があります。そのためには、定山溪に訪れている来訪客のデータを的確に収集し、それを共有・分析したうえで、データに基づいた戦略を企画立案することができる体制を構築する必要があります。

⑦ 定山溪までの交通利便性の確保

路線バス等の公共交通や、宿泊施設の送迎バスの維持の困難さが増していますが、個人旅行の増加や外国人観光客の増加、沿線住民への影響などの観点も含め、定山溪までの交通アクセスの利便性の確保が課題です。

⑧ 定山溪エリア内の交通利便性の確保

来訪者に定山溪エリア内の周遊を楽しんでもらうためには、交通利便性の向上が必要です。日帰り客や宿泊前、宿泊後の方も利用できる駐車場の確保や、自家用車を利用しない層でも快適に移動できる交通手段の確保が課題です。

1 本構想のコンセプト

第3章定山溪観光の現状及び第4章定山溪観光の課題を踏まえ、令和7年（2025年）～令和16年（2034年）の10年間で、定山溪が魅力的な観光地づくりを進めるために、第2次定山溪観光魅力アップ構想では以下をコンセプトとして掲げます。

国内外の来訪者を魅了する 持続可能な温泉観光地 「札幌定山溪」

コンセプトに込められた意味

古くから札幌市民に親しまれてきた定山溪は、近年では海外からの来訪者も多く訪れるようになっていきます。ここでいう「持続可能な温泉観光地」とは、観光客と地域がともに利益を享受しながら、継続的に発展していく観光地を指します。その実現には、従来のように札幌市民に愛される存在であり続けることに加え、海外からの観光客を含め、より多様なニーズや顧客層に対応していくことが求められます。

そのために、定山溪の強みである四季折々の豊かな自然や観光スポット、多種多様な宿泊施設、北海道を代表する温泉観光地として積み重ねてきた歴史など地区内の様々な資源を磨き上げ、国内外の来訪客が豊かな時間を過ごすことができるよう、新たな時代を切り拓く創造的で魅力的な温泉観光地を目指します。

2 定山溪観光の基本方針

第3章定山溪観光の現状及び第4章定山溪観光の課題及び、前述の定山溪観光のコンセプトを踏まえ、定山溪の観光魅力アップを目指す将来像の実現に向け、新たな財源となる宿泊税の活用も見込み、以下の4つの基本方針を掲げます。

また、4つの基本方針に基づく取組を実行するに当たって、短期的に取り組む「重点施策」を設定し、魅力的な温泉観光地の実現に向けて、着実に進めていきます。

【定山溪観光の現状】

- ① 国内人口の減少、海外市場の拡大
- ② 客層の変化
- ③ 魅力的な景観形成に向けた取組
- ④ 滞在時間の短さ
- ⑤ 定山溪の顔となるような特徴的なイメージの弱さ
- ⑥ 定山溪エリアとしての誘客戦略
- ⑦ 定山溪までの交通アクセス
- ⑧ 定山溪エリア内の交通手段及び駐車場の不足

【定山溪の観光魅力アップに向けた課題】

- ① 新たな市場の開拓
- ② 客層の変化への対応
- ③ エリアの特性に応じた戦略的な景観形成
- ④ 滞在時間の延長
- ⑤ 地域固有の資源の磨き上げ
- ⑥ データに基づいた戦略づくりに向けた基盤整備
- ⑦ 定山溪までの交通利便性の確保
- ⑧ 定山溪エリア内の交通利便性の確保

コンセプト

国内外の来訪者を魅了する持続可能な温泉観光地 「札幌定山溪」

基本方針1

定山溪の魅力を
感じる街並みや
景観の維持/形成

基本方針2

エリアの特性を
活かした
コンテンツの充実

基本方針3

戦略的な
プロモーション
の展開

基本方針4

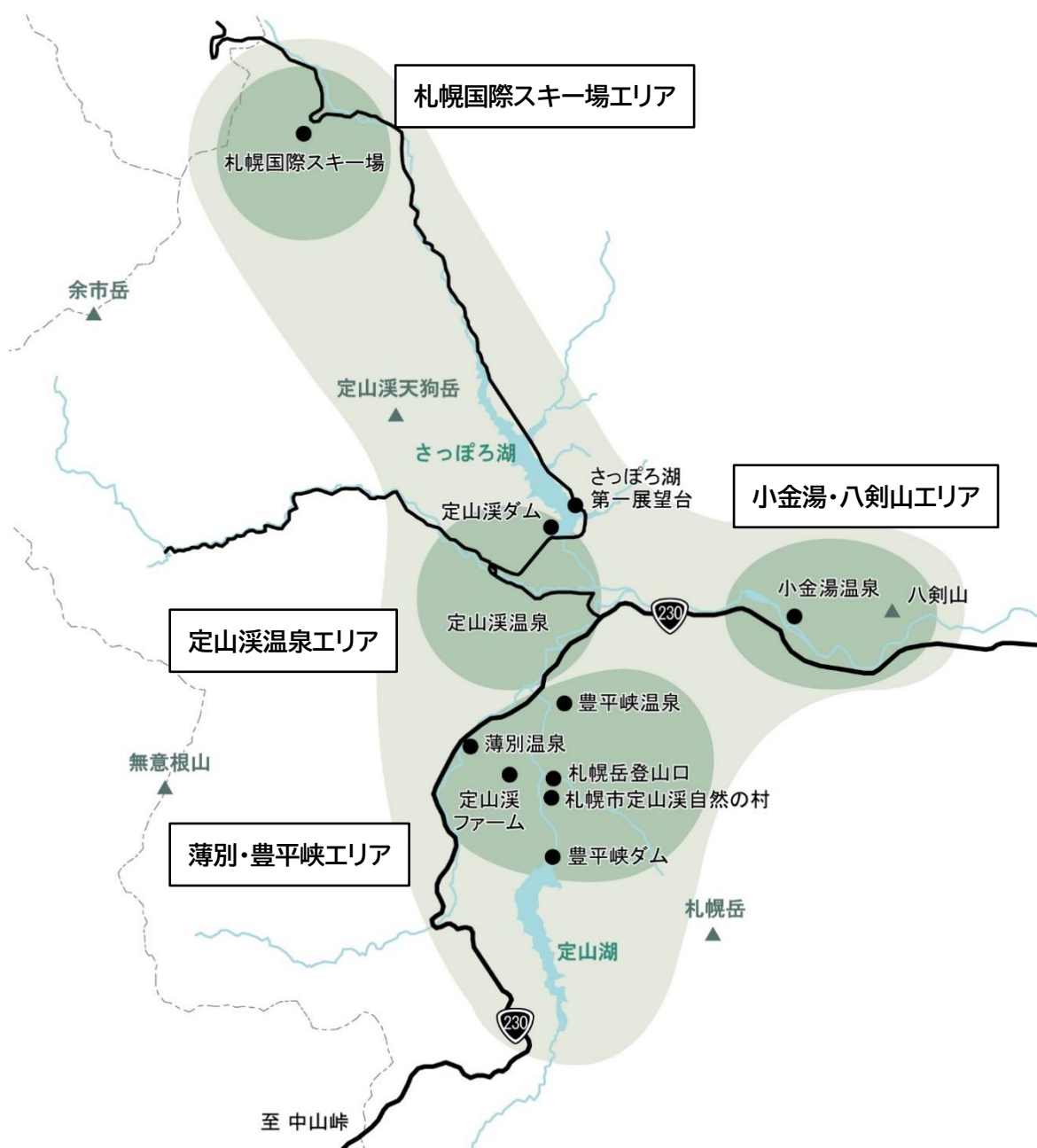
交通アクセス
の改善

■本構想における対象エリアとゾーニングについて

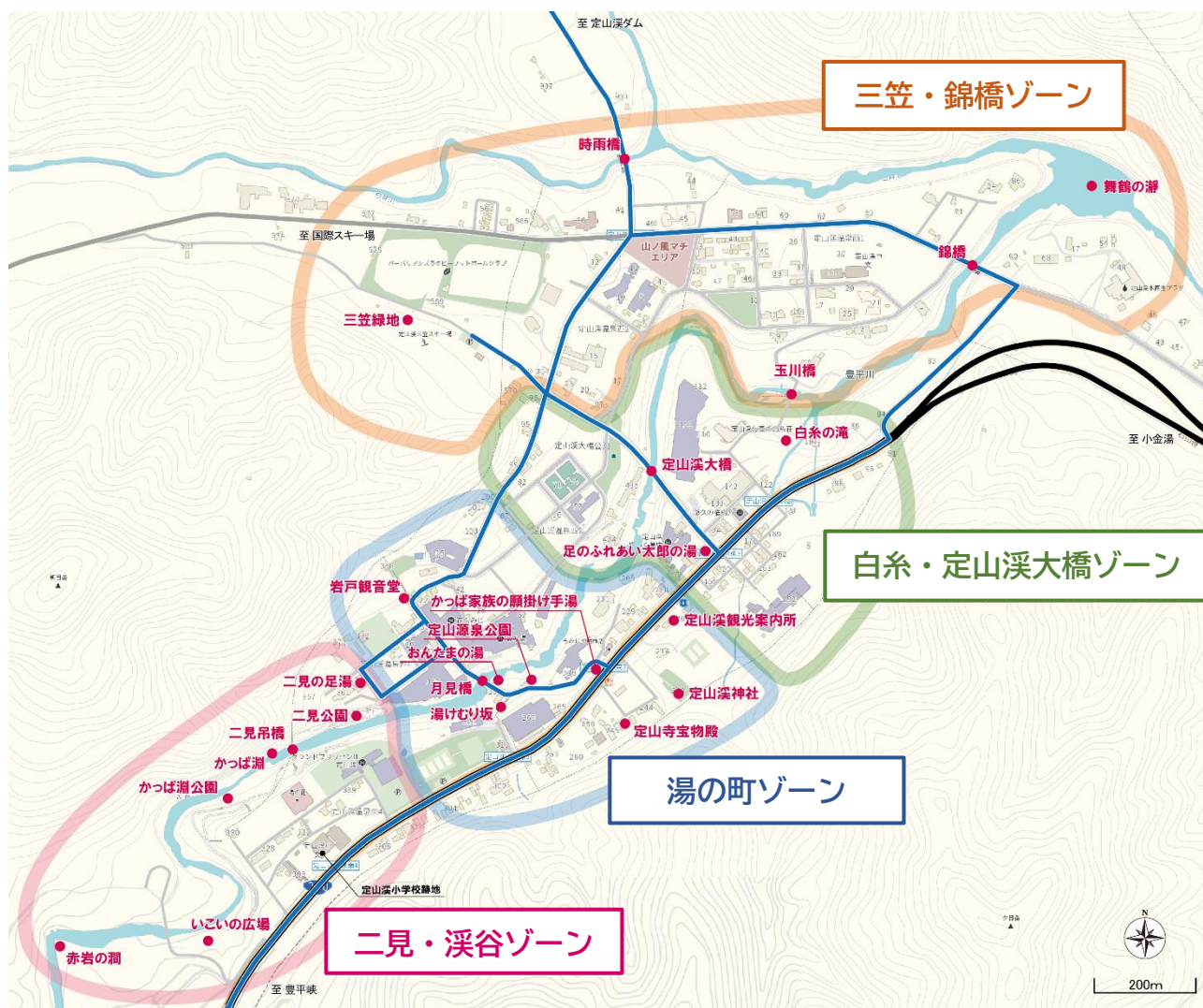
本構想では、定山溪温泉街周辺を「定山溪温泉エリア」、小金湯温泉や八剣山周辺を「小金湯・八剣山エリア」、薄別温泉や豊平峡温泉、豊平峡ダム周辺を「薄別・豊平峡エリア」、札幌国際スキー場周辺を「札幌国際スキー場エリア」と呼びます。

定山溪の中心となる「定山溪温泉エリア」は、豊かな自然景観やアクティビティを楽しめる場所、昔ながらの情緒あふれる温泉宿が軒を連ねる場所があるなど、場所によって景観や特徴が異なっていることから、特徴ごとにゾーニングすることで、本構想における景観形成やコンテンツの磨き上げといった取組をわかりやすく表します。

本構想における対象エリア



本構想では、定山溪温泉街を4つのゾーンに分け、その特徴を活かしながら、基本方針に沿った取組を進めていきます。



【二見・溪谷ゾーン】

定山溪温泉街を流れる豊平川の上流に位置しており、自然豊かな散策路「二見定山の道」や「赤岩の澗」や「かっぱ淵」といった景観スポットを有しています。「定山溪温泉かわまちづくり計画」の推進を中心とした、自然との触れ合い体験を重視したゾーンです。

【湯の町ゾーン】

定山溪中央線沿いに、旅館・ホテルが集中し、昔ながらの温泉街を形成しています。「定山溪神社」や「定山寺」、「岩戸観音堂」など歴史的背景を継承する建造物があり、湯の町の歴史を感じるゾーンです。

【白糸・定山溪大橋ゾーン】

「白糸の滝」や「足のふれあい太郎の湯」といった観光資源のほか、眺望点である「定山溪大橋」からは、溪谷と調和した温泉街の景色を眺めることができます。豊かな自然と温泉街の特色を活かした景観の維持向上を図るゾーンです。

【三笠・錦橋ゾーン】

飲食店が集積する「山ノ風マチ」のほか、「三笠緑地」、「玉川橋」、「錦橋」、アクティビティ拠点である「舞鶴の瀬」などがあり、グルメと自然が調和する賑わいと癒しを重視したゾーンです。

基本方針 1

定山溪の魅力を感じる街並みや景観の維持/形成

■ 定山溪の観光魅力アップに向けた課題

- 課題① 新たな市場の開拓
- 課題② 客層の変化への対応
- 課題③ エリアの特性に応じた戦略的な景観形成
- 課題④ 滞在時間の延長
- 課題⑤ 地域固有の資源の磨き上げ

■ 基本方針のねらい

定山溪温泉街のゾーニング及び「定山溪地区景観まちづくり指針」（平成 29 年（2017 年）策定）の考えを踏まえるとともに、「かわまちづくり計画による河畔園地の整備や景観の改善」を重点施策とし、多様な宿泊施設等を有する温泉街の街並みと豊かな自然環境が形成する景観の魅力を高め、来訪者の満足度向上や口コミなどによる波及効果の拡大を図ります。

■ 基本方針の方向性

方向性 1 豊かな自然を大切にする景観まちづくり

二見吊橋から赤岩の澗（あかいわのかん）へと続く二見定山の道をはじめ、アクティビティの拠点である舞鶴の瀬（まいづるのとり）や三笠緑地、かわまちづくり計画において整備を行う二見公園といった美しい自然景観があります。これらの景観を維持するとともに、自然を活かした観光スポットとしての魅力向上のため、景観づくりを進めます。

【取組例】

■かわまちづくり計画と連動した豊かな景観の形成

- ・かわまちづくり計画による河畔園地の整備等
- ・二見・溪谷ゾーンにおける、四季折々の自然のうつろいや、生物・山野草を楽しめる環境・景観の形成

■みどりの保全と創出

- ・「三笠緑地」や「小金湯さくらの森」など緑地空間の維持向上
- ・在来種の植栽等



方向性2 歩いて楽しい賑わいとおもてなしを感じる景観まちづくり

来訪者がそぞろ歩きをしたくなるような景観づくりを目指し、賑わいの連続性の創出や環境美化活動を推進します。

また、季節ごとに景観を活かしたイベントを実施するほか、夜間でも景観を楽しめるよう、あかりの演出などを行います。

【取組例】

- ・指定路線や三笠・錦橋ゾーンにおける賑わいの連続性の創出（花やみどりによる演出、季節に応じた花や紅葉する樹種を選定した植栽、飲食店等の立地促進、滞留空間の設置検討等）
- ・景観誘導区域における空き地・空き家調査及び利活用に向けた検討
- ・環境美化活動（ゴミ拾い、草刈り、除雪、植栽、等）の推進と維持管理体制の検討
- ・四季の景観を活かしたイベントの推進（溪流鯉のぼり、雪灯路など）
- ・あかりの演出（屋外照明やライトアップなど）による夜間景観の創出
- ・国道230号沿い等におけるウェルカム感の醸成

方向性3 渓谷美を守り活かす景観まちづくり

「定山渓地区景観まちづくり指針」に定められている眺望点や、その他渓谷美を堪能できる場所からの景観向上を図ります。また、渓谷美を守るため、維持管理を積極的に行います。

【取組例】

- ・かわまちづくり計画に基づく護岸整備にあわせた月見橋周辺等の景観の改善及び河川敷等の利用ルール策定
- ・眺望点等からの景観に影響を及ぼす物件等の把握及び改善に向けた検討
- ・河川敷等の日常的な維持管理の強化

方向性4 湯の町の成り立ちを継承する景観まちづくり

温泉街の成り立ちを今に伝える定山溪神社や定山寺など開湯 150 年を超える定山溪温泉街の歴史を感じられる資源が残る景観を維持継承していきます。

また、湯の町ゾーンにおける和の雰囲気や温泉街らしさを感じさせる演出などの取組を推進します。

【取組例】

- ・ 定山溪神社、定山寺、岩戸観音堂など温泉街の歴史を感じる資源が残る景観の維持継承
- ・ 湯の町ゾーン内の指定路線等における和の雰囲気の演出
- ・ 温泉街らしさを感じさせる湯けむり、暖簾、行灯などによる演出

基本方針2

エリアの特性を活かしたコンテンツの充実

■ 定山溪の観光魅力アップに向けた課題

- 課題① 新たな市場の開拓
- 課題② 客層の変化への対応
- 課題④ 滞在時間の延長
- 課題⑤ 地域固有の資源の磨き上げ

■ 基本方針のねらい

「エリアやゾーンごとの特性を活かしたコンテンツや、四季折々の定山溪ならではのコンテンツの充実」を重点施策とし、多様化する観光ニーズに対応するとともに、インバウンドや日帰り客といった新たな客層の取り込みを図ります。また、様々な魅力的なコンテンツを提供することで、宿泊日数及び滞在時間の延長に繋がります。

■ 基本方針の方向性

方向性1 定山溪温泉街におけるゾーニングとコンテンツの磨き上げ

温泉街を中心とした定山溪温泉エリアにおいて、4つのゾーンの特性を活かしたコンテンツの磨き上げ、充実を図ります。

【取組例】

■二見・溪谷ゾーン ～自然との触れ合い体験を重視～

- ・かわまちづくり計画による河畔園地の整備等（再掲）
- ・「二見公園」、「二見定山の道」（二見吊橋～赤岩の澗）の利活用促進
- ・生物生息空間※を活用した自然体験学習の取組の検討
- ・四季折々の自然や、生物・山野草を楽しめる環境・景観の形成（再掲）
- ・アスレチック系アクティビティの検討

■湯の町ゾーン ～温泉街らしい和の雰囲気、歴史を重視～

- ・定山溪神社、定山寺、岩戸観音堂など温泉街の歴史を感じる資源が残る景観の維持継承（再掲）
- ・指定路線等における和の雰囲気の演出（再掲）

※ 生物生息空間：多様な生物が共生するための自然環境を人工的に再現または保全した空間。ビオトープ

- ・温泉街らしさを感じさせる湯けむりなどによる演出（再掲）
- ・月見橋からの景観の維持向上とライトアップ等の演出

■白糸・定山溪大橋ゾーン ～定山溪を象徴する眺望点を活かした景観を重視～

- ・定山溪大橋から望む溪谷と温泉街が調和した景観の維持向上、演出の検討（ライトアップ、周遊スポットとしての磨き上げなど）
- ・足のふれあい太郎の湯から、定山溪大橋、玉川橋、白糸の滝までの周遊促進

■三笠・錦橋ゾーン ～グルメと自然の調和、賑わいと癒しを重視～

- ・グルメと自然を調和させた特色あるイベントの推進
- ・錦橋・時雨橋からの景観の維持向上
- ・三笠緑地の魅力向上やアクティビティ等での利用促進に向けた検討
- ・河川敷地をアクティビティ等で利用する際のルール策定

方向性2 定山溪エリア内のコンテンツを活かした滞在メニューの充実

定山溪の各エリアの自然や施設、アクティビティといったコンテンツを組み合わせることで、各エリアを繋ぐ面的な滞在メニューの充実を図ります。

【取組例】

- ・コンテンツを組み合わせた滞在メニューの充実

■エリア別の例

エリア	組み合わせが期待されるエリア別コンテンツの例
エリア共通	<ul style="list-style-type: none"> ・各エリアの泉質の異なる温泉や各施設のサウナ ・豊平川を活用したウォーターアクティビティ ・登山・トレッキング（朝日岳・夕日岳・札幌岳・無意根山等）
小金湯・八剣山	<ul style="list-style-type: none"> ・小金湯温泉 ・文化体験（札幌市アイヌ文化交流センター） ・花見（小金湯さくらの森） ・キャンプ、登山（八剣山、周辺エリア） ・食（ワイナリー、果樹園）
豊平峡・薄別温泉	<ul style="list-style-type: none"> ・豊平峡温泉、薄別温泉 ・景観（豊平峡ダム） ・キャンプ（定山溪自然の村） ・農業体験（果樹園）
札幌国際スキー場	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティ（札幌国際スキー場、さっぽろ湖） ・景観（定山溪ダム、さっぽろ湖、道道1号線）

- ・旧定山溪小学校の跡活用の検討

方向性3 季節の特色を活かしたコンテンツの充実

定山溪には、四季折々の多様なコンテンツが存在します。例えば、春には、紅葉のように植物が色づく春紅葉や、雪解け時期にだけ現れる滝、雪解け水による激流を利用したアクティビティなど、その季節ならではの観光資源があります。

こうした期間限定の観光資源をコンテンツ化することや、既存のコンテンツを磨き上げていくことも含めて、各季節の「売り」となるコンテンツを設定し、季節ごとのブランディングを確立していきます。

【取組例】

- ・ 既存のイベントの充実や、季節の特徴を活かしたお祭りなどの新たなイベントの検討
- ・ 季節の特色を活かしたコンテンツの充実

■季節ごとのコンテンツ例

季節	コンテンツ例
春	<ul style="list-style-type: none"> ・ 溪流鯉のぼり ・ 雪解け水が流れる幻の滝、春紅葉 ・ 激流ラフティング ・ エゾエンゴサクやカタクリの一群 など
夏	<ul style="list-style-type: none"> ・ JOZANKEI NATURE LUMINARIE ・ くだもの狩り（サクランボ、イチゴ、プルーン、りんご、ぶどう など） ・ カヌー、SUP ・ 菩提樹のはちみつ など
秋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五大紅葉（ガイド付き観光バス、豊平峡ダム、札幌国際スキー場の紅葉ゴンドラ、など） ・ 紅葉サイクリング、トレッキング ・ 早朝カヌーから眺める紅葉 など
冬	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雪灯路 ・ 三笠緑地の雪遊び（そり） ・ かまくら体験 ・ 雪見ラフティング、ガイド付きスノーシュー など

基本方針3

戦略的なプロモーションの展開

■ 定山溪の観光魅力アップに向けた課題

課題① 新たな市場の開拓

課題② 客層の変化への対応

課題④ 滞在時間の延長

課題⑥ データに基づいた戦略づくりに向けた基盤整備

■ 基本方針のねらい

「データ分析に基づいた市場開拓」を重点施策とし、DMOが持つ観光データの収集・分析機能や、各関係団体との連携・調整機能を活用しながら、時代の流れを汲み取ったきめ細やかで効果的なプロモーション施策を展開し、新規市場の開拓やリピーターの増加に繋がります。

■ 基本方針の方向性

方向性1 戦略的なプロモーションの展開に向けた基盤の構築

来訪者の属性などの、定山溪全体の基礎的な観光データの充実を目的として、持続可能なデータ収集の仕組みを検討します。

また、収集したデータの分析を行い、地元観光関連事業者と共有するとともに、プロモーション戦略を企画立案することができる体制についても検討します。

【取組例】

- ・ 定山溪の観光データの充実に向けた、地元観光関連事業者の負担も考慮したデータ収集方法の検討
- ・ データ分析及び共有に向けた手法・役割の検討
- ・ データ分析に基づくプロモーション戦略の立案に向けた役割の検討

方向性2 ターゲットに応じたプロモーション戦略の立案

定山溪を訪れる観光客のデータ分析結果に基づき、定山溪全体の観光客の動向を把握したうえで、新規顧客の開拓と既存顧客の来訪頻度の増加、滞在時間の延長を目指して、ターゲットに応じた効果的なプロモーション戦略を立案します。

【取組例】

■ターゲットや滞在目的別のアプローチ

- ・マーケット別（札幌市民、道内、道外、インバウンド）
- ・世代別（若者、ファミリー、シニア等）
- ・目的別（温泉、グルメ、アクティビティ）
- ・シーズン別（桜、緑、紅葉、雪等）
- ・ターゲットや滞在目的に応じた適切な媒体を活用したプロモーションの検討
- ・旅マエ、旅ナカ、旅アトを意識した段階ごとのアプローチ

方向性3 プロモーションの展開と結果の検証

効果的なプロモーションを展開し続けるためには、実施したプロモーションの結果を分析し、適宜、プロモーション施策を改善していく必要があります。このため、プロモーション実施に向けたPDCAサイクルを行う体制を構築します。

また、継続的にデータを活用した戦略的なプロモーションを実施するためには、地元観光関連事業者の協力が不可欠であることから、情報を共有しながら、定山溪全体として取組を推進していきます。

【取組例】

- ・PDCAサイクルを推進する体制の構築
- ・収集したデータの分析に基づくプロモーションの成果、その他地元観光関連事業者にとって有益な情報の共有
- ・真駒内駅前まちづくりと連携した情報発信

方向性4 様々な主体を巻き込んだ情報発信

近年、飲食店の新規出店やアクティビティ事業者の進出などを契機に、定山溪を訪れる客層が広がりを見せています。来訪者に様々な魅力を提供し、高い評価を得られれば、その魅力が各種メディアに加えて、口コミ等で拡散され、さらに来訪者が増えます。そうした地域の盛り上がりが事業者へ伝わることで、新規事業者の参入や新サービスの提供など新たな投資を促進し、地域の魅力がさらに高まるという好循環が生まれます。

そうした好循環につながるよう、地域で情報共有を行いながら、様々な主体を巻き込んだ情報発信を行っていきます。

【取組例】

- ・ 地元観光関連事業者間における取組の共有と積極的な情報発信
- ・ 新規事業者の参入や新サービスの提供を促す支援の実施と、その情報発信
- ・ 事業者間の交流や情報発信につながるイベント等の開催

■ 定山溪の観光魅力アップに向けた課題

- 課題① 新たな市場の開拓
- 課題② 客層の変化への対応
- 課題④ 滞在時間の延長
- 課題⑦ 定山溪までの交通利便性確保
- 課題⑧ 定山溪エリア内の交通利便性確保

■ 基本方針のねらい

「定山溪エリアの交通利便性の確保」を重点施策とし、定山溪までの交通アクセスや、定山溪内における移動手段の充実を図るとともに、それらの交通を受け入れる環境整備を行うことで、利便性・快適性を向上させ、来訪者の増加や滞在時間の延長を図ります。

■ 基本方針の方向性

方向性 1 定山溪までの交通アクセスの充実

札幌都心や地下鉄真駒内駅といった主要駅等から、定山溪までのアクセス手段の充実や、来訪者に対してアクセス手段の分散を促す取組を行うことで、季節変動にも対応し得る安定した輸送の確保を目指します。

また、来訪者が安心かつ快適に定山溪まで行けるような取組を推進することで、来訪者の満足度の向上に繋がります。

【取組例】

■ アクセス手段の維持・確保

- ・ 季節変動に応じた増便対応等に関連する交通事業者との連携強化(札幌駅からの直行バス等)
- ・ 宿泊施設等の送迎バスの共同化に向けた課題整理（基礎調査/実証実験の実施等）、運営体制の検討
- ・ 真駒内駅前の開発と合わせたバス発着スペースの確保の検討

■ 多様なアクセス手段の活用・分散促進

- ・ タクシー利用の促進
- ・ 地下鉄真駒内駅を経由するアクセス方法の周知と利用促進
- ・ 新千歳空港や、周辺観光地(小樽、洞爺、登別、ニセコ等)からの交通手段の確保に向けた関連する交通事業者との連携

■移動における快適性の向上

- ・手荷物別送サービスなど、快適性の向上や混雑緩和に資する取組の推進
- ・個人客を対象とした交通手段を含む旅行商品の開発

方向性2 定山溪内における移動手段の充実

来訪者の利便性向上や周遊促進のため、定山溪温泉街からの訪問需要が高い周辺観光エリアとのアクセスを強化します。

また、周遊すること自体の魅力を高めるための仕掛けとして、各観光スポットに応じた、多様な移動手段の導入に取り組めます。

【取組例】

■定山溪温泉街と周辺観光エリア間のアクセス強化

- ・積雪期における定山溪温泉街と札幌国際スキー場エリア間のアクセス強化
- ・無雪期における定山溪温泉街と豊平峡温泉エリア間のアクセス強化

■周遊の魅力向上

- ・目的地別の移動手段とルートの提案
- ・サイクリングルートの整備
- ・新たな移動手段の導入検討

方向性3 受入環境の整備

自家用車で定山溪を訪れる日帰り客や宿泊前後の方が利用できる駐車場を整備することで、自家用車でいつでも気軽に来訪できる環境を整えるとともに、来訪者の滞在時間の延長を図ります。駐車場の整備にあたっては、持続可能な運営を可能とするため、有料化を検討します。

また、定山溪までの交通手段と定山溪内の移動手段を繋ぐ場となる拠点の導入について検討します。

【取組例】

■定山溪温泉街における駐車場の整備

- ・有料駐車場の設置に向けた実証実験の実施（スポーツ公園駐車場を試行的に有料駐車場として運営）
- ・遊休地などを活用した駐車場整備の検討

■交通結節拠点の検討

- ・自家用車駐車場・バス発着地・定山溪内周遊の発着地等としての機能を持った交通結節拠点の導入検討
- ・観光案内所・休憩所等の附帯機能の導入を含めたあり方検討

第6章

観光魅力アップの推進に向けて

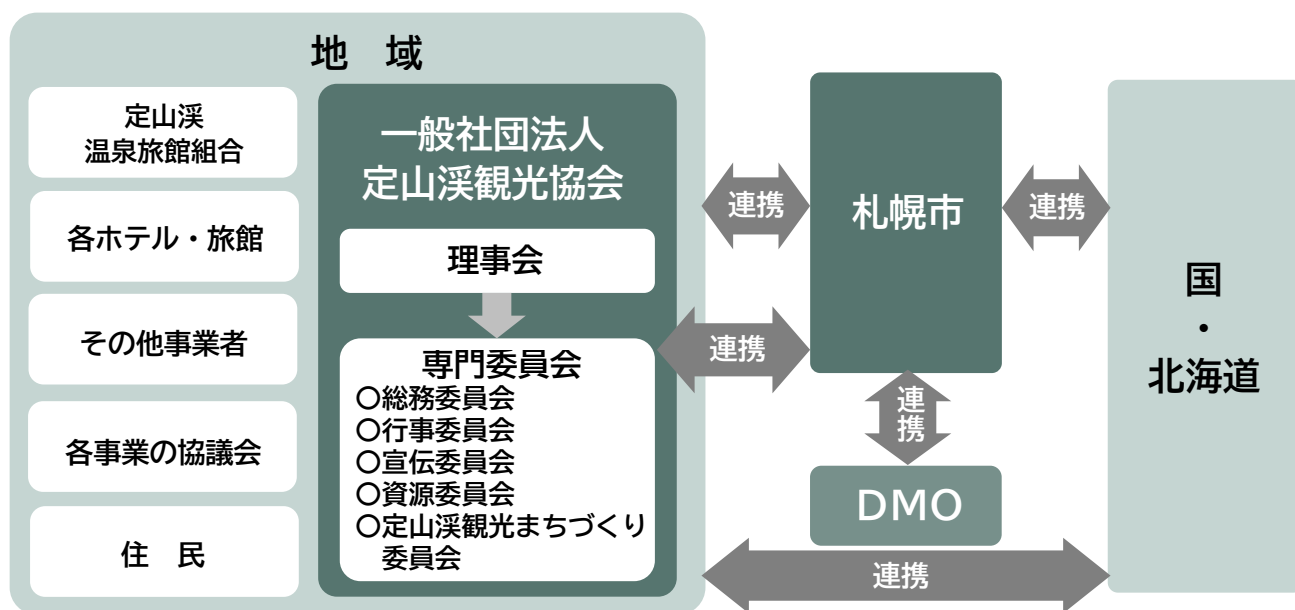
1 本構想の推進体制

第5章で掲げる基本方針1～4の推進及び定山溪における観光を取り巻く環境の変化に対応し、地域と札幌市及び国・北海道が本構想の進捗状況を共有するため、推進体制を強化します。

定山溪観光協会は、会長、副会長、理事等で構成される「理事会」の下、各種イベントの企画立案や観光宣伝施策の検討を行う「専門委員会」が設けられています。各委員会では会長または理事会で委任された事項を所管しています。

本構想においては、定山溪観光協会の各専門委員会と市の役割を整理するとともに、新たに設立されたDMOとの連携も視野に、推進体制を強化していきます。

また、定山溪観光協会における事務局機能についても、人員や体制などを含め強化を検討します。



※専門委員会の名称及び数はR 7年2月時点のもの

2 実施主体及び展開スケジュール

基本方針1～4で掲げる取組例の実施主体と展開スケジュールを掲載します。

なお、第5章で設定した重点施策に基づき、他の取組に先立って早期に着手する取組は、**早期着手** マークを付して明示しています。

基本方針・取組例	実施主体	短期的な取組例	中長期的な取組例
基本方針1 定山溪の魅力を感じる街並みと景観の維持・形成			
① 豊かな自然を大切にする景観まちづくり			
■かわまちづくり計画と連動した景観の形成			
・かわまちづくり計画による河畔園地の整備等 早期着手 早期着手	札幌市、空知総合振興局、定山溪観光協会(資源、まち)、定山溪地区(豊平川)かわまちづくり協議会	計画に基づく整備	適切な維持管理
・二見・渓谷ゾーンにおける、四季折々のうつろいや、生物・山野草を楽しめる環境・景観の形成	札幌市、石狩振興局、定山溪観光協会(資源)	適切な維持管理 二見定山の道の利活用促進	
■みどりの保全と創出			
・「三笠緑地」や「小金湯さくらの森」など緑地空間の維持向上	札幌市、定山溪観光協会(資源)	適切な維持管理	
・在来種の植栽等	定山溪観光協会(資源)	取組の充実	
② 歩いて楽しい賑わいとおもてなしを感じる景観まちづくり			
・指定路線や三笠・錦橋ゾーンにおける賑わいの連続性の創出(花やみどりによる演出、季節に応じた花や紅葉する樹種を選定した植栽、飲食店等の立地促進、滞留空間の設置検討等)	定山溪観光協会(資源)、その他事業者、地域住民	取組の充実	
・景観誘導区域における空き地・空き家調査及び利活用に向けた検討	札幌市、定山溪観光協会(資源)、定山溪温泉旅館組合、その他事業者、地域住民	検討	利活用の促進
・環境美化活動(ゴミ拾い、草刈り、除雪、植栽、等)の推進と維持管理体制の検討	定山溪観光協会(資源)、ホテル・旅館、その他事業者、地域住民	維持管理体制の構築 適切な維持管理	
・四季の景観を活かしたイベントの推進(溪流鯉のぼり、雪灯路など)	定山溪観光協会(行事)	取組の充実	
・あかりの演出による夜間景観の創出	定山溪観光協会(行事)、ホテル・旅館、その他事業者	屋外照明やライトアップなどによる取組の充実	
・国道230号沿い等におけるウェルカム感の醸成 早期着手	札幌市、定山溪観光協会(総務、行事、宣伝)、定山溪温泉旅館組合、ホテル・旅館、その他事業者	歓迎フラッグ装飾などによる取組の充実	
③ 渓谷美を守り活かす景観まちづくり			
・かわまちづくり計画に基づく護岸整備にあわせた月見橋周辺の景観の改善及び河川敷等の利用ルール策定 早期着手	札幌市、空知総合振興局、定山溪観光協会(資源、まち)、定山溪地区(豊平川)かわまちづくり協議会	計画に基づく整備 適切な維持管理 ルールの策定、運用	
・眺望点等からの景観に影響を及ぼす物件等の把握及び改善に向けた検討	札幌市、定山溪観光協会(資源、まち)	検討	検討を踏まえた取組の充実
・河川敷等の日常的な維持管理の強化	札幌市、空知総合振興局、定山溪観光協会(資源、まち)、定山溪地区(豊平川)かわまちづくり協議会	維持管理体制の構築、取組の強化	適切な維持管理
④ 湯の町の成り立ちを継承する景観まちづくり			
・定山溪神社、定山寺、岩戸観音堂など温泉街の歴史を感じる資源が残る景観の維持継承	定山溪観光協会(資源)、その他事業者	取組の充実	
・湯の町ゾーン内の指定路線等における和の雰囲気演出	札幌市、定山溪観光協会(資源)、定山溪温泉旅館組合、その他事業者	取組の充実	
・温泉街らしさを感じさせる湯けむり、暖簾、行灯などによる演出	札幌市、定山溪観光協会(資源)、定山溪温泉旅館組合、その他事業者	取組の充実	

基本方針・取組例	実施主体	短期的な取組例	中長期的な取組例
基本方針2 エリアの特性を活かしたコンテンツの充実			
① 定山溪温泉街におけるゾーニングとコンテンツの磨き上げ			
■二見・渓谷ゾーン ～自然との触れ合い体験を重視			
・「二見公園」、「二見定山の道」 (二見吊橋～赤岩の洞)の利活用促進 早期着手	札幌市、石狩振興局、空知総合振興局、定山溪観光協会(資源、行事)、その他事業者	二見吊り橋など景観の維持管理	
・生物生息空間を活用した自然体験学習の取組の検討	定山溪観光協会(資源、行事)、その他事業者	取組の充実	
・アスレチック系アクティビティの検討	札幌市、その他事業者	アクティビティ調査検討	検討を踏まえたアクティビティの展開
■湯の町ゾーン ～温泉街らしい和の雰囲気、歴史を重視～			
・月見橋からの景観の維持向上とライトアップ等の演出	定山溪観光協会(資源、行事)	適切な維持管理、演出の検討	取組の充実
■白糸・定山溪大橋ゾーン ～定山溪を象徴する眺望点を活かした景観を重視～			
・定山溪大橋から望む渓谷と温泉街が調和した景観の維持向上、演出の検討(ライトアップ、周遊スポットとしての磨き上げなど)	定山溪観光協会(資源、行事)、定山溪温泉旅館組合、その他事業者	適切な維持管理、演出の検討	取組の充実
・足のふれあい太郎の湯から、定山溪大橋、玉川橋、白糸の滝までの周遊促進	定山溪観光協会(宣伝)、その他事業者	取組の充実	
■三笠・錦橋ゾーン ～グルメと自然の調和、賑わいと癒しを重視			
・グルメと自然を調和させた特色あるイベントの推進	定山溪観光協会(行事、宣伝)、その他事業者	取組の充実	
・錦橋・時雨橋からの景観の維持向上	札幌市、定山溪観光協会(資源)	適切な維持管理	
・三笠緑地の魅力向上やアクティビティ等での利用促進に向けた検討	札幌市、定山溪観光協会(資源、行事)、その他事業者	検討	検討を踏まえた取組の充実
・河川敷地をアクティビティ等で利用する際のルール策定 早期着手	札幌市、定山溪地区(豊平川)かわまちづくり協議会、その他事業者	ルールの策定	ルールの運用
② 定山溪エリア内のコンテンツを活かした滞在メニューの充実			
・コンテンツを組み合わせた滞在メニューの充実	その他事業者	取組の充実	
・旧定山溪小学校の跡活用の検討	札幌市、定山溪観光協会(まち)、地域住民	検討	活用
③ 季節の特色を活かしたコンテンツの充実			
・既存のイベントの充実や、季節の特徴を活かしたお祭りなどの新たなイベントの検討 早期着手	定山溪観光協会(行事、宣伝)、その他事業者	既存のイベントの魅力向上	新たなイベントの検討
・季節の特色を活かしたコンテンツの充実	その他事業者	その他事業者によるコンテンツの検討	その他事業者によるコンテンツの充実
基本方針3 戦略的なプロモーションの展開			
①戦略的なプロモーションの展開に向けた基盤の構築			
・定山溪の観光データの充実に向けた、地元観光関連事業者の負担も考慮したデータ収集方法の検討 早期着手	札幌市、定山溪観光協会(宣伝)、定山溪温泉旅館組合	データ収集の検討	—
・データ分析及び共有に向けた手法・役割の検討	札幌市、定山溪観光協会(宣伝)	手法・役割の検討	—
・データ分析に基づくプロモーション戦略の立案	札幌市、定山溪観光協会(宣伝)	役割の検討	—
② ターゲットに応じたプロモーション戦略の立案			
・ターゲットや滞在目的別のアプローチ 早期着手	札幌市、定山溪観光協会(宣伝)	—	①を踏まえた実施
③ プロモーションの展開と結果の検証			
・PDCAサイクルを推進する体制の構築	札幌市、定山溪観光協会(宣伝)	推進体制の構築 取組の充実	
・収集したデータの分析に基づくプロモーションの成果、その他地元観光関連事業者にとって有益な情報の共有 早期着手	札幌市、定山溪観光協会(宣伝)	観光関連事業者が求めるデータ等の提供	
・真駒内駅前まちづくりと連携した情報発信	札幌市、定山溪観光協会(宣伝)	検討	
④ 様々な主体を巻き込んだ情報発信			
・地元観光関連事業者間における取組の共有と積極的な情報発信	定山溪観光協会(宣伝)、ホテル・旅館、その他事業者	情報発信等の継続	
・新規事業者の参入や新サービスの提供を促す支援の実施と、その情報発信	定山溪観光協会(宣伝)、ホテル・旅館、その他事業者	支援等の継続	
・事業者間の交流や情報発信につながるイベント等の開催	定山溪観光協会(宣伝、行事)、ホテル・旅館、その他事業者	交流機会の創出	

基本方針・取組例	実施主体	短期的な取組例	中長期的な取組例
基本方針4 交通アクセスの改善			
① 定山溪までの交通アクセスの充実			
■アクセス手段の維持・確保			
・季節変動に応じた増便対応等に関連する交通事業者との連携強化 (札幌駅からの直行バス等) 早期着手	札幌市、定山溪観光協会(まち)、その他事業者	観光客専用バス運行等による交通アクセスの充実	
・宿泊施設等の送迎バスの共同化に向けた課題整理(基礎調査・実証実験の実施等)、運営体制の検討	定山溪観光協会(まち)、定山溪温泉旅館組合	検討 実証実験	検討を踏まえた取組の充実
・真駒内駅前の開発と合わせたバス発着スペースの確保の検討	札幌市、定山溪観光協会(まち)、定山溪温泉旅館組合	検討	
■多様なアクセス手段の活用・分散促進			
・タクシー利用の促進	定山溪観光協会(宣伝)	関係団体との連携強化によるタクシー利用促進	
・地下鉄真駒内駅を経由するアクセス方法の周知と利用促進	札幌市、定山溪観光協会(宣伝)	関係団体と連携した情報発信	
・新千歳空港や、周辺観光地(小樽、洞爺、登別、ニセコ等)からの交通手段の確保	札幌市、定山溪観光協会(宣伝)	交通事業者と連携した取組の検討	
■移動における快適性の向上			
・快適性の向上や混雑緩和に資する取組の推進 早期着手	札幌市、定山溪観光協会(宣伝)、定山溪温泉旅館組合	手荷物別送サービスなど手ぶら観光の促進	
・個人客を対象とした交通手段を含む旅行商品の開発	定山溪観光協会(宣伝)、その他事業者	旅行会社等との取組の検討	
② 定山溪内における移動手段の充実			
■定山溪温泉街と周辺観光エリア間のアクセス強化			
・積雪期における定山溪温泉街と札幌国際スキー場エリア間のアクセス強化	定山溪観光協会(まち)、その他事業者	スキーライナーの充実	
・無雪期における定山溪温泉街と豊平峡温泉エリア間のアクセス強化	定山溪観光協会(まち)、その他事業者	交通手段の検討	検討を踏まえた取組の実施
■周遊の魅力向上			
・目的地別の移動手段とルートの提案	定山溪観光協会(まち)	周遊手段の充実の検討	
・サイクリングルートの整備	札幌市、定山溪観光協会(まち)	検討	検討を踏まえた取組の充実
・新たな移動手段の導入検討 早期着手	札幌市、定山溪観光協会(まち)	実証実験	検証を踏まえた取組の充実
③ 受入環境の整備			
■定山溪温泉街における駐車場の整備			
・有料駐車場の設置に向けた実証実験の実施(スポーツ公園駐車場を試行的に有料駐車場として運営) 早期着手	札幌市、定山溪観光協会(まち)、その他事業者	実証実験	検証を踏まえた取組の充実
・遊休地などを活用した駐車場整備の検討 早期着手	札幌市、定山溪観光協会(まち)、定山溪温泉旅館組合、その他事業者	調査	調査を踏まえた取組の実施
■交通結節拠点の検討			
・自家用車駐車場・バス発着地・定山溪内周遊の発着地等としての機能を持った交通結節拠点の導入検討	札幌市、定山溪観光協会(まち)	検討	検討を踏まえた取組の実施
・観光案内所・休憩所等の附帯機能の導入を含めたあり方検討	札幌市、定山溪観光協会(まち)	検討	検討を踏まえた取組の実施

3 成果指標

第2次札幌市観光まちづくりプランで掲げる成果指標を踏まえ、本構想の成果指標を次のとおり定めます。また、成果指標の目標達成に関連する指標についても目標値を設定し管理します。

【第2次構想で掲げる成果指標】

成果指標		基準値※	目標値 (令和17年度(2035年度))	指標に 関連する 基本方針
定山溪の総観光消費額 (定山溪を訪れた国内外の日帰り・宿泊の 観光客を対象とする)		470億円	888億円	1, 2 3, 4
関 連 指 標	定山溪地域の延べ宿泊者数	925千人	1,284千人	1, 2 3, 4
	温泉街の街並みに魅力があ ると感じる人の割合	55.9%	70.0%	1
	周辺観光スポットが充実し ていると感じる人の割合	46.6%	60.0%	2
	北海道を訪れた観光客にお ける定山溪の認知度	調査数値	基準値より10%アップ	1, 3
	交通環境に関する満足度	調査数値	基準値より10%アップ	4

※ 基準値の「北海道を訪れた観光客における定山溪の認知度」「交通環境に関する満足度」は令和7年度(2025年度)の調査数値、それ以外は令和6年度(2024年度)の数値を採用。

4 進捗管理、成果の検証

統計数値は、毎年度更新し、成果指標の進捗管理を行うとともに、基本方針や施策展開に関連することから、継続してデータを収集し今後の検証に活用していきます。

これらの統計や社会経済情勢、成果指標、事業の進捗状況を照らし合わせながら、毎年度、定山溪観光協会と事業が適切に進行しているか検証を行います。検証の結果を踏まえ、必要に応じて新たな事業の追加や既存の事業の見直しを行うほか、データの収集方法を改善するなど、適宜対策を立案し、実行していきます。

1 策定経過

本構想は、以下のとおり計4回の次期定山溪観光魅力アップ構想検討会議を開催し、本構想の検討を行いました。

■検討会議の概要

開催日時 / 場所		議題
第1回	令和6年(2024年)6月21日(金) 11:00~13:00 心の里定山 ヒーリングラウンジ	<ul style="list-style-type: none"> ・定山溪観光魅力アップ構想の振り返り ・定山溪地区の観光の現状と課題
第2回	令和6年(2024年)7月24日(水) 11:00~13:00 ホテル鹿の湯「鹿のSALON」	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回会議の振り返り ・定山溪観光魅力アップ構想の基本方針(案)
第3回	令和6年(2024年)9月9日(月) 14:00~16:30 旅籠屋 定山溪商店	<ul style="list-style-type: none"> ・定山溪エリアのゾーニング(案)について ・基本方針(案)の深堀り(ねらい、方向性、主な取組)
第4回	令和6年(2024年)11月1日(金) 11:00~13:00 定山溪万世閣ホテルミリオーネ	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストスピーカーによる講演 ・次期構想のコンセプト、成果指標、進行管理等 ・持続可能な推進体制の構築 ・今後の検討の進め方、スケジュール



■検討委員（五十音順、敬称略）

氏名	所属など
岩佐 信	アイビーホスピタリティホテルズ&リゾート 事業開発マネージャー
陰元 潤一	一般社団法人定山溪観光協会 理事、定山溪連合町内会 会長 (株式会社松の湯旅館 代表取締役社長)
金川 浩幸	一般社団法人定山溪観光協会 副会長、定山溪温泉旅館組合 組合長 (株式会社ホテル鹿の湯 代表取締役社長)
高野 伸栄	北海道大学工学研究院土木工学部門 教授
中西 幸弘	中定建設工業株式会社 常務取締役
布村 英俊	一般社団法人定山溪観光協会 副会長、定山溪温泉旅館組合 副組合長 (株式会社第一寶亭留 代表取締役社長)
濱野 清正	株式会社萬世閣 代表取締役社長
古川 雅朗	一般社団法人定山溪観光協会 会長、(株式会社定山溪物産館 代表取締役)
古川 善浩	一般社団法人定山溪観光協会 副会長、定山溪温泉旅館組合 副組合長 (株式会社ぬくもりの宿ふる川 代表取締役)

■オブザーバー（五十音順、敬称略）

氏名	所属など
遠藤 浩	北海道 環境生活部 自然環境局 自然環境課 自然公園担当課長
太田 博之	札幌市 南区 市民部 定山溪出張所 所長
酒井 聡佑	国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 都市圏道路計画課 課長
櫻庭 佑輔	環境省 北海道地方環境事務所 支笏洞爺国立公園管理事務所 所長代理
松本 香織	北海道 石狩振興局 保健環境部 くらし・子育て担当部長
松本 範之	北海道 空知総合振興局 札幌建設管理部 事業室 事業課 課長